

Mongol Exchange Program

2011 summer



目次

持ち物リスト

メンバー紹介

テーマエッセイ

フリーエッセイ



持ち物リスト

◎絶対必要なもの

パスポート	服（防寒対策を！）	かばん
航空券	お金（参加費+2～3万円あれば十分）	海外保険
ノート・筆記用具	懐中電灯	タオル類

●持って行った方がいいもの

おみやげ	洗剤	洗濯バサミ	ロープ（洗濯物干す用）
乾燥対策グッズ	ウェットティッシュ	日焼け止め	サングラス・帽子
綿棒	電池・充電機器	カメラ	トイレットペーパー
常備薬 ※	指さし帳	カイロ・腹巻き	とげ抜き

※1 乾燥対策グッズ一例

リップクリーム	ハンドクリーム	肌水	目薬
のどあめ	のどスプレー	マスク	美容マスクシート

※2 常備薬一例

正露丸	鎮痛剤	風邪薬	花粉対策用の薬
-----	-----	-----	---------

○お役立ちグッズ・草原遊び用グッズ

ボール	シャボン玉	音楽	メッセージカード
殺虫剤	ゼリー系飲み物	カップラーメン	スポーツドリンク（粉末）
トランプ・UNO	カラーペン	写真	おやつ

メンバー紹介

とりやま たかし 鳥山 昂史 神戸大学 1回生  とっても人に優しい団長＼(^o^)／ 誰とでも仲良くなりました。 彼が団長でほんと頼りになりました（^ω^）	たかやす そら 高安 空 神戸松蔭女子大学 1回生  ほんわかした雰囲気でもとても可愛いけれど、中身はしっかりしています。 周りのこととかちゃんと見ていて、本当によく気がつく子☆良いカメラを持っています。
しおざき ゆか 塩崎 柚佳 神戸松蔭女子大学 1回生  みんなの妹！！！！ ちょっと天然が入っていると思います笑 誰とでも仲良くなれるし、ノリもめっちゃいいし、みんなからの愛され度No.1！！！！	なんば え のぶゆき 難波江 信行 同志社大学 1回生  飲み会担当(笑) 普段は秘めた能力を隠していますが、飲み会ともなるとその才能を開花させ、お酒の強いモンゴル人と互角の戦いを繰り上げました。 生態はよく分からず、メンバー内で謎度No.1です笑
やの みづき 矢野 望月 同志社大学 2回生  一見 cool に見えるけど、人と笑いのツボがずれていて、謎なところで笑いが止まらなくなる不思議で結構熱い子。 とってもしっかりしていて頼りになります。	こばやし りな 小林 李菜 神戸女学院大学 2回生  つば広帽子がとても似合うオシャレさん！！草原立つ姿はとても優雅でした。 話し方も上品で、喋っていて癒されます。

とりい みどり
鳥居 翠

神戸女学院大学 2回生



みんなからハーフと疑われまくっていたほどの美人さん。

酔うと不思議な発言を始めるようですが、普段はすごいしっかりしています(笑)

あと足めっさ速いです。

わだ まゆみ
和田 真由美

神戸女学院大学 2回生



まぶしい笑顔でみんなをメロメロにしていました笑

子供達からなつかれまくっていて、一緒に遊んで草原を駆けまわる姿はもう微笑ましすぎて・・・。

まる ゆい こ
丸 祐依子

関西学院大学 2回生



行動力が半端ない元気娘です。

そして、悔しいほどにおもしろいです。まるの周りでは常に笑いが絶えなかったです♪川への顔面ダイブは皆の心に深く刻まれています・・・笑

はたけなか ゆき な
畠中 佑紀奈

ノートルダム清心大学 2回生



めっちゃ可愛いです。

ゆきな美容室の店長で、いつも人の髪を編みこんだり、アレンジしたりしてくれていましたが、他の人の髪を仕上げていたら、自分の髪にかかる時間がなくなってしまうことがたびたびあった、とっても優しい子です♪

はしもと なおき
橋本 直樹

関西学院大学 2回生



いつもすべり知らずw

みんなをずっと笑わせていました＼(^o^)/

つじ さき
辻 早紀

岡山大学 2回生



サバサバしていてカッコいいけど、たまになんだか甘えん坊な雰囲気かもしれません。

喋っていて楽しいし、可愛いし、メンバー1のモデル子だと思います☆

きたしろ まさと
北代 雅人

甲南大学 2 回生



ほんまにおもしろいの一言！

ダウンを使ったネタが大好きでした笑

むらかみ そのみ
村上 園実

京都大学 3 回生



理系の知識を生かした鋭いツッコミが面白かったです（^ω^）酔ったときに記憶を無くすのはだめですよー（`・ω・`）笑

きのう しずか
喜納 しずか

神戸大学 4 回生



まさにクールビューティー！！

たまに見せてくれる満面の笑顔がたまりません!!!!

いつも冷静に判断して、その場をおさめていまし

た・・・懂れます（●^o^●）

たかき やすのり
高木 靖典

神戸大学 4 回生



いつも冷静でとても頼れます\(^o^)/

某メンバーを説教する姿は鉄板でしたw

荒川 源太郎

神戸大学 4 回生



いつもはおとなしく、

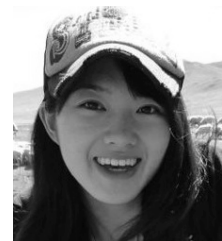
時には冷静に毒舌を吐きますw

しかし、はっちゃける時にははっちゃけます笑

はっちゃけた姿がかわいかったです（*_^*）

のなか みさこ
野中 美紗子

神戸大学 4 回生



みんなのお母さんの存在で、近くにいるだけでなんだかとっても安心！！

でも、人を川に引きずりこんだり、たまに無邪気に恐ろしいことをやっていました笑

にしわき かずき
西脇 一樹

岡山大学 4 回生



どんなことが起きてもつらいと思わず楽しんでいました。

こんなカッコいい人初めてです笑



やまばた まい
山端 麻依

関西学院大学 4 回生



笑顔がとっても素敵なお姉さんです。

いつもニコニコしていて、近くにいるだけでなんだか癒されます。その上、周りへの気配りがすごいです！！

たにかわ みき
谷川 美樹

関西学院大学 4 回生



女子力めっちゃ高いです。ストロールがここまで似合う人はなかなかいません。気品が漂っています☆とても頼りになるお姉さんで、困ったことが起こっても、サッサーと処理していました。素敵です♪

もり たかひろ
森 貴大

関西学院大学 4 回生



腕立て伏せする姿はとってもかっこよかったです (*^_^*)

あのすべった後の空気の処理の仕方は大好きですよ笑

ほそかわ まな
細川 真菜

関西学院大学 4 回生



目がとってもパッチリで、恋バナ大好きなとってもcuteな先輩です♪

その上、めちゃくちゃおもしろいです (●^o^●) たくさんネタを持っています(笑)親しみやすさNo. 1です！！

なかえ あさみ
中江 麻未

関西学院大学 4 回生



美人さんな上に、話がめちゃくちゃ面白いです！！

しかも、しょうもない話も笑顔で聞いてくれて、ツッコミまで入れてくれる天使並みの寛大さ！！

しまむら こうさく
嶋村 耕作

関西学院大学 4 回生



ISA の会長さんです。人をすべらせてニコニコしてる姿は本当に楽しそうでした。笑

いつも自由な感じが素敵なお先輩です (*^_^*)

ジャギーさん



生徒と仲が良い日本語の先生
日本語ぺらぺらどすけべ先生
流し目がエロい、近い、頼りになる
ザ・ジェントルマン！

鉄平

歌って踊れてなんでもできるノリノリジャーナリスト
モンゴルを体現したような人
ダンスうまい、一人だと意外と落ち着いてる、お酒弱い
いつも陽気なエンターテイナー☆

ツォゴー(海老蔵)

日本語が上手でネットゲーム大好きな男の子
ちょっと東京人ばい雰囲気を持つ日本女性をこよなく愛する青年
恋バナ大好きな今時なイケメソ
お酒強い、ムードメーカー、料理上手、何でもソツなくこなすタイプ、下ネタ好き
海老蔵のシチューは今まで食べた中でダントツにおいしかった



ツォゴー(クリリン)

リナ大好き
おでこがかわいい
優しい・カードゲーム大好きそして強い 力持ち
優しい&ほんとに学生・・・？



ツィギ(ベジータ)

筋肉すごすぎ、お酒強すぎ
胸元、ダンスになると途端に積極的になる
笑顔で急発信・ブレーキする強烈ドライバー
馬に乗ってる姿にずきゅーん



モモ

カッコかわいいクールなお姉さん
笑顔がすき☆
メンバー1の美容家☆かかと手のマッサージは欠かせません！



オルナ

大人の女性

めーちゃ綺麗なスタイルを持つモンゴル女性
大人っぽくみえるけど、意外とお茶目さん
シャイだけど笑顔が可愛いお姉さん☆



オノ

めっちゃ優しい！絵が好き

かわいい 勉強熱心！

日本文化通。彼女に剣道習いたい！w

もはや画家！リュークとか本物並み！



ザヤ

日本語が上手な女の子(^ω^) 最初は日本人かと思いました

一番の仲良し、お姉ちゃん、優しい、こういう女になりたい

優しい！かわいい！料理がめっちゃ上手 細いののに力持ち まゆみのお姉ちゃん

皆の女神。快適なゲル生活は彼女のおかげ☆



マンダ

スポーツ 料理もなんでもできるノリノリな女の子 私服は超オシャレー
ファッションリーダー、かっこいい

いちご狩りの名人、マンダ姉は一ん！

おしゃれ！可愛い！おもしろい！ダンサー！あざっすってよく言う！



バエルマ(おしん)

綺麗な黒髪を持つ可愛い女の子

笑顔がとても可愛い女の子 片言な日本語も超可愛い

かわいい！ 日本語が上手

とってもキャピキャピなモンゴルガール。



アリユナ(みゆき)

内に何かを秘めてる、お酒強い、罰ゲームをなんだかんだでやってくれる
都会っ子で虫が苦手 洋楽とか海外セレブが大すきで情報通

洋楽を愛する心優しくクールなDJ。

酒豪・・・(笑) 笑うとめっちゃ可愛い☆



テーマエッセイ



「異文化交流」

中江 麻未

今回私たちをお世話してくれたのは日本語を教えているモンゴル人の先生とその先生に日本語を学ぶモンゴル人の子たちでした。なので会話も多くは日本語で事足りました。でも中には日本語を学び始めて数カ月の子もいて自分の伝えたいことが上手く伝わらずもどかしい事も何度かありました。そんな時のボディランゲージはとても偉大でボディランゲージは世界共通だと感じました。大体の事はこれで伝わりますw（余談ですがw）

言葉が伝わらない時は、なんでもっとモンゴル語を日本で勉強して来なかったんだろうと後悔しました。その時「異文化交流って互いにその国や文化を知ろうとする事だよな〜、私はモンゴルについて深く知ろうとしてなかったかもな〜。」と思いました。

異文化交流には色々な部分があるし正解や間違いなんてないと思いますが、互いの相手の文化に興味を持ち、知りたいと思ひ、理解しようとした時良い形の異文化交流が出来るんじゃないかとこのモンゴルexを通じて感じました。

「モンゴルの現在と未来」

荒川 源太郎

モンゴルに行って感じたことのなかで自分にとって印象的だったのはウランバートルの街の様子が日本とは全く違うということだった。近年まで社会主義国だったためなのか、はたまた気候が厳しい国だからなのか、いわゆる発展途上国だからなのか、理由は様々に考えられた。

まず国会議事堂やその前にある大きな広場、古くから有るような暗い色調のビルというのは、ロシアや中国にも見られるような旧社会主義国の特徴だと思った。そして至る所で行われている道路工事は、話を聞いた所夏の暖かい間しか作業が出来ないため街のそこかしこで工事をしているらしかった。ただ道路工事自体も発展途上国だからなのかお世辞にも丁寧とは言えないもので、土ぼこりはひどいしできあがった道もガタガタだしというような状態で、実際バス移動の時はおバスが跳ね上がって乗り心地は良くなかった。また、次々と新しく近代的なビルが建てられたりしていてこれからの発展を感じさせる街だった。

しかし発展途上国という割にはフィリピンや台湾のようにバイクが見えたらなかった。ウランバートルの街中には、車が凄く多くて、歩いている人はそれなりに居て、自転車に乗るのは子供ぐらい、バイクに乗る人は全然居なかった。車がない人の交通手段はおバスかタクシー(いわゆる白タク)のようでウランバートルはもっぱら車社会だった。そのおかげかウランバートル市内は渋滞がひどく車が押し合いへし合いしていた。

資本主義国になって 20 年弱の発展で町の様子は大きく変わっただろう。昔は車もそんなに多くなくて増えたのはここ 10 年ぐらい。そんなモンゴルがこれから 10 年 20 年後にはどんな国になっているのかすごく気になった EX だった。

「モンゴルのお酒」

辻 早紀

この EX に参加して思ったことなのだが、モンゴル人はお酒が強い !!! なんでも、ウォッカの摂取基準が世界基準で 1 年間に 5〜8 リットルなのに対し、モンゴル人は 40 リットル飲むのだとか…。お酒が原因と思われる病気も増えているらし

く、国を挙げて過剰飲酒の防止に取り組んでいるようだ。たしかにホームステイの時、24時過ぎにお酒をスーパーに買いに行ったのだが、24時以降は売ることが禁止されていた。

モンゴル人の文化では「お酒を飲むこと」は日本よりも大事なコミュニケーションだとして考えられている。乾杯を繰り返し、お互いの絆を深めあうのだ。モンゴル人にとってお酒はなくてはならないものだという事を改めて気付かされた。

「モンゴルのロックについて」

嶋村 耕作

さて、テーマエッセイはみんな結構真面目な感じで書くと思うので、僕はちょっとゆるめにモンゴルで出会った素敵なロックバンドについてご紹介したいと思います。モンゴルの音楽、何も知りませんよね。僕も全く知りませんでした。ホーミーと馬頭琴ぐらいしか知らず、それも知識としてあるだけで実際に聴いたこともほとんど無かったです。ましてやモンゴルの流行音楽なんて知る由もありません。そして全くと言っていいほど興味がありませんでした。

しかし、ウランバートルでのホームステイ中に、クリリン（だいじょうぶだよ！が口癖の愛すべきモンゴリアン）の家で何気なく目にしたミュージックビデオを見て衝撃が走りました。最初見た時はあまりにも格好良くて、洋楽、何となくですがUSロックのバンドかなーと思ったのですが、クリリンに聞いてみるとモンゴルのロックバンドだとのこと。一目惚れ、いやー聴き惚れしてしまった僕は、早速そのバンドのCDを2枚と、適当に良い感じのバンドっぽいCDをジャケ買いしてみました。

『The Lemons』と『The Pips』、前者がMVを見て惚れたバンドで、後者がジャケ買いしたバンドです。The Lemonsはモンゴルで人気のバンドで、モンゴル人メンバーもみんな知っていました。The Pipsは若手のバンドらしく、聞いた限りでは誰も知りませんでした。どちらのバンドも素直らしく、日本のロックバンドでは聴くことのできないような、初期のストロークスに似たUSロックっぽい音プラスちょいパンクって感じですごく格好良かったです。しかもモンゴル語で歌っているので、独特の響きが耳に心地よく、非常に新鮮でした。どちらも今や大好きなバンドです。是非、諸外国に行った際は冒険のつもりで現地でしか買えないようなCDを買ってみることをおすすめします。

「貧困問題」

高安 空

私は、事前学習でマンホールチルドレンという言葉を知りました。子どもたちが汚劣な環境の中で、伝染病や皮膚病の脅威にさらされながら生活をしているという話に、とてもショックを受けたことを今でも覚えています。

ウランバートルの中心部を見る限りでは、マンホールで暮さなければならぬ人がいるなんて想像ができません。しかし、中心部から少し離れると急に街が寂しくなり、貧富の差を目の当たりにしました。夜景も、中心部はとても綺麗なのに、他の部分は明かりがありません。同じ地域なのに、目で見てわかるほど貧富の差があることに衝撃を受け、それが貧困問題について深く考えるきっかけになりました。

考え気付いたことは、どんなに良い政策にも必ず落とし穴はあること、そして、その穴を埋めるためには何個もの法律を改正しなければならないため、長い時間を要することです。完璧な政策が存在しないことは仕方のないことかもしれ

れません。しかし、政策を改正する間にも、貧困に苦しむ人は増え、マンホールで生活をする子どもは伝染病にかかってしまいます。それは仕方のないこととして片付けられる出来事ではありません。みんなが宿を持ち、毎日の食事に困らず、子どもが平等に教育を受けられる。そのようになるためには、政府だけでなく、国民全員がこの問題と向き合わなければいけないと感じました。

「モンゴルの鉱山資源と日本」

村上 園実

モンゴルは埋蔵量世界4位を誇る銅をはじめとしたニッケル、モリブデン、タングステンといった多くの鉱山資源を持つ国として、世界中から注目を浴びています。モンゴルの持つ豊かな希少金属の鉱脈は世界各国にとって宝の山のように映り、21世紀の黄金郷と言われたほどです。実際、ウランバートルでは様々な人種のビジネスマンらしき人をもっとも多く見かけました。現在、世界中の国・企業がモンゴルの資源をめぐり、熾烈な競争を繰り広げているのです。

有名どころでは、銅の埋蔵量が45万トンといわれるオユ・トルゴイ鉱山では、中国の江西銅業とカナダのアイバンホー社と共同で開発を行うという契約が結ばれ、イギリスの会社も出資を行っています。

ですが、モンゴルの資源開発に関して、モンゴルに対する最大援助国である日本の企業の話はほとんどできません。これは日本企業が海外企業との熾烈な争いを勝ち抜けるための自国のテクノロジーをより魅力的にアピールする能力を持った人材が少ないためだと言われます。

日本には資源はありませんが、高い技術があります。日本とモンゴルの技術提携は双方に大きな利益があるでしょう。このモンゴルの持つ資源に対する熾烈な国際競争での遅れを巻き返すため、モンゴルと更に深い関係を築き、文化的・経済的な交流をより活発に日本政府が行うべきだと私は思います。

「発展に伴い、モンゴルが抱える課題」

西脇 一樹

大量の車で渋滞する道路。街の至る所で建設されるビル。海外の高級ブランドが入ったデパート。コンクリート造りのマンション、アパートが占める一画。これがモンゴルの首都ウランバートルで自分が見た光景。本当にあらゆるところでビルの建設等の開発が進み、都市中央部は非常に整備され、正直想定していたよりも随分と発展していた。待ち行く人たちもお洒落な服装で、本当に近代化しているのを感じた。

だが、中心部から少し離れば景色も一変する。整備の成されていない土の道路、家々は木の柵で区切られていて中心部の様子とは全く異なる様子が続き、はっきりとした貧富の差が現れている風景はとても衝撃的なものだった。最近ではレアアースの開発計画も進み、鉱業を中心に経済発展を遂げているにも関わらず、この現状は可成りのだろう。

ウランバートルの人口は約120万人、モンゴル国の総人口の45%が集まっている。その人口の約6割が「元遊牧民」とされている。民主化を区切りに一度は増加した遊牧民人口だが、自然災害により家畜財産を失い、また、民主化に伴う市場経済化でそれまでの家畜に対する公的支援が廃止されたことなどにより支援も受けられない遊牧民達が地方から首都へ移住し郊外にゲルを建て居住を始めた結果、現状のような都市の形となったらしい。そのような元遊牧民達の増加に対し都市部のインフラはいつか、貧富の格差は広がっている。

もう一つ、不安視されていることがある。それは「伝統の薄れ」だ。

都市への定住化が進み、若者や子供達の中で遊牧生活を知らない層が増えているらしく、ウランバートル近郊の草原に遊牧民の生活を再現したテーマパークまで出来た。伝統が薄れ、新しい世代に受け継がれなければ、遊牧民としてのモンゴル人のアイデンティティが失われてしまう恐れがある。

ウランバートルで会ったおじさんの「ここ10年でウランバートルの街の様子がすっかり変わった」という言葉が印象に残った。近代化による発展、それに伴う変化は必要だが、それと引き換えに失ってはいけないものが今のモンゴルでは消失の道を辿っているように思える。

貧富の差、伝統の薄れ。どちらも解決は難しく、長期的に取り組まなければならない問題だけれども、少しずつ取り組まなければならない。

「モンゴルの遊牧民の現状」

鳥山 昂史

モンゴルに行く前からモンゴルの遊牧民って今でも「スーホの白い馬」に近い生活を送っているのかというのを疑問に思っていた。

遊牧よりも牧場で大量に飼う方が効率的だろうし、近代化に触れているうちに、遊牧を捨てる方が金銭的には間違いなく儲けは出ると、遊牧を生業としている人達も考えるのではないかと考えていたからだ。

実際にプログラムでの遊牧民生活を経て、僕も認識の甘さを思い知らされた。

実際の遊牧民はパラボラアンテナとソーラー電池でテレビを見るし、バイクに乗って羊が逃げないかを見張ってた。自分の想像力が足りなかっただけで近代化と遊牧は普通に共存できるようだった。

ステイ先の人に話をうかがってみたところ、現在ウランバートルに人口の半分は移住しているが、遊牧をしている人の数もまだまだいるらしく、彼らは農産物を市内に出てきて買う以外は全ての食材を自給自足出来るらしい。またネグデル(牧畜協同組合)によって干し草や燃料用の糞などの必要物資も調達が可能で、生活は安定しているが、個人の放牧の腕次第では大儲けする者もあるので、所得の差は開きやすいらしい。

現在では遊牧と言っても移動距離は少なく、資材の補充も容易なため省力化が進んでいるが、ウマの重要性や家畜の管理法など遊牧民としての知恵は今もいきついでおり、モンゴルのアイデンティティとしての遊牧は衰退せず、その文化を後世に残していくと思われる。

参考文献

『地球の歩き方 モンゴル』、ダイヤモンド・ビッグ社

「モンゴルにおける貧富の差」

難波江 信行

未だに、モンゴル人の大半が遊牧をしていると思われるが、実際はモンゴル人の約40%がウランバートル市内に住んでおり、遊牧をしている人はたったの約10%なのである。そして、過密化するウランバートル市内において、格差が拡大しているのを身をもって体験した。

ホームステイ先のことであるが、私のホームステイ先は道路が舗装されていないところにあり、そして水道が通っておらず、もちろんシャワーもなく、お手洗いは垂れ流しだったのである。ホームステイ先はウランバートル市内にあり、中心部からほんの少し離れたところにあったが、ほんの少しで環境がかなり変わってしまう事に愕然としてしまった。ウランバートル市内は建物が新しく作られたりするなど、まだ発展途中であるが、モンゴルに来る前のイメージからするとかなり発達してるように思われた。しかし、少し中心部から離れると、とても市内とは思えないほどの風景に変わってしまうのであった。

現在、モンゴルにおいて生じているこのような目に見える貧富の差の拡大は非常に良くないことであると私は考えている。なので日本が出来ることは最低限のインフラの整備の援助を行うべきだと思う。現在でもウランバートル市内の水道整備の援助を行っているようだが、日本並みの環境が整うまでは是非援助を続けてほしいと思う。そしてモンゴルにおける貧富の差を小さくしつつ、モンゴルが経済発展していけるような援助を行って欲しい。

「日本から見るモンゴル」

橋本 直樹

今日、日本は先進国に位置づけられることが多い。とすると日本からモンゴルを見ると、経済的な面で日本より劣っており、非常に貧しい国の一つであると思う。私が感じたことは、いくらモンゴルが親日国である、と認識していても都市部の治安がとても悪く感じ、犯罪が多くバスや店内でのスリも日常茶飯事であると認識しました。現に、今回の日本人メンバーも少し被害に遭ったという情報も耳にしました。こちら側も、日本での常識にとらわれないようにし、ある程度の緊張を持ち行動することが大事ですが、モンゴルの治安改善にも力を注いでいただきたい。

モンゴルをもっと発展させるには、第三次産業であるサービスなどに力を入れるべきである。他の国の観光客を呼び寄せるために、どのように魅力ある国にすべきかを考えねばならないだろう。そのためにもインフラをしっかりと整備する必要もあるし、都市部、郊外関係なしに治安の改善もする必要がある。急な改革は難しく、まだまだ先になる見通しであるが、何十年後かにまたモンゴルを訪れて、国際的に魅力ある国になっていることを願っている。

「草原の国・モンゴルの都市問題」

塩崎 柚香

モンゴルと言えば「草原、羊、砂漠」などの雄大な自然を思い浮かべていました。しかし、首都「ウランバートル」が急激な都市化により直面している都市問題「ゲル地区」について述べたいと思います。ゲル地区の住民の中には、お金はあるけれどもアパートは狭いためゲルに住んでいる人もいますが、大半の人はそうではありません。多くの人は蛇口をひねると水が出てきて、暖房も一日中ある「便利な」アパートに移りたいと思っています。ところが、アパートを購入するためにはお金が必要で、一般の人がお金を銀行から借りることも難しく、また失業率も高いため、他の選択肢はありません。地方から移動してきて空き地に柵で自分の敷地を囲み、ゲルを立ててそのまま住み始めます。ゲル地区の生活環境は、いわゆる水道がない、石炭で暖房を取るなど伝統的な田舎のライフスタイルと似ていますが、その生活を都市で営むことによってどのような問題が生まれるのでしょうか？ウランバートル市は南北を山に囲まれる盆地です。北側山脈に、そしてそこから東西にゲル地区が広がっています。ひと冬に1世帯が5トンも使用する石炭から出る煙は

大気汚染の原因となります。冬のウランバートル市の大気汚染は非常に深刻で市内中心部に石炭の臭いが蔓延し、ゲル地区に住んでいない住民の服にも石炭臭が染み付く程です。また排水システムもありません。汚染、生活排水や散乱するゴミが土壌に浸透することによって起こる土壌汚染、地盤沈下、急激な人口増加による学校の不足、そして不衛生な生活環境からの病気の蔓延など急激な都市化によって多くの問題が生まれているのです。

「モンゴル語とキリル文字について」

山端 麻依

モンゴルE xでは正直、日本語オンリーで暮らせると聞いていたので、油断した私はあまりモンゴル語を覚えていなかった。さらに言えば英語が少し話せればなんとかなるだろうと思い、『ありがとう』の『ハヤルララー』くらいしか覚えていなかったのだが、現地に到着してから（特にホームステイをしている時）後悔した。街中の看板はキリル文字で溢れ返っているし、店員さんにはまったく英語が通じなかった。何か注文する時は常にモンゴル人メンバーにお世話になっていた。今から思うと相当残念なことをしていたと思う。

私がこのE xで教えてもらって、今でも覚えているモンゴル語は数少ない。一つはモンゴル人が電話をする時に言う「バイノ」という言葉。これは日本語で「もしもし?」に相当する。後はてっぺんの車の中で流れていたモンゴル人アーティスト『anemone』の歌に出てくる「ザヒヤ」。これは「手紙」という意味らしい。あまり日常的に使えない単語ばかりである。「バイノ」も「ザヒヤ」も発音し易いのですぐに覚えたが、他のモンゴル語は発音が難しすぎてすぐに忘れてしまった。舌を歯の裏側にくっつけて隙間から「エ」の発音をするなど到底不可能である。（たしかみっきーのモンゴルネームの発音がこれ）

しかし、街中でたくさん看板を目にしたおかげでキリル文字の方は少しわかるようになった。法則性があるのでわかりやすかった。例えば、私のモンゴルネームは「AHV」と書いて「アノ」と発音する。（ちなみに昔のお姫様の名前らしい。）ローマ字でいうHをNの発音で読むので、街中で見かけた「БАНК」は「BANK」（銀行）と読むことができた。また、街の至る所で見えたカラオケの看板は、ほとんどが「KAPAOKE」と書かれていて、RとPを間違っているんだなとずっと思っていたが、実はキリル文字のPはエルの発音となるため、「KAPAOKE」の表記で「カラオケ」と発音できるのだ。しみがカパオケと書いて笑っていたが実は間違っていなかったのである。

このように調べるのではなく、自分自身で法則性を発見することによってますますキリル文字とモンゴル語に興味を持った。モンゴル語の文法は日本語と同じらしいので、勉強して、せめて読めるようにはなりたいなと思った。

「モンゴルのお酒について」

細川 真菜

まず、最もモンゴルで有名なお酒は馬乳酒。世界の気色悪い食べ物TOP 10に入っているほどのつわもので、馬の乳を原料としたお酒です。モンゴルに来たからには、飲んでみようと思い、町中にあるテントのような所で飲みました。でも、とにかく酔の物なみにすっぴん！ってのが正直な感想でした。でも、飲んでると、慣れてきて日本のお神酒のような味にも感じられました。なので、こんな風にランキング入りしてるのが少し意外でした。

後はウォッカ。お酒について詳しくない私にとって、ウォッカにいろんな種類があることに驚きました。その中でも、

チンギスウオッカがおそらく有名で、アルコール度数がだいたい40%くらいのものです。しかしパッケージがチンギスハーン顔のものと、チンギスハーンが馬に乗ってるものなどがあり、それぞれ少し異なるようです。例えば、馬に乗ってる方は、次の日馬に乗る＝働かなければならないということで、二日酔いしにくいとか…私も詳しくはわかりませんが…ww

でも、このEXを通じて感じたのはモンゴル人が特別お酒が強いという事です。あれだけ強いお酒をがぶがぶ飲めるのはすごいですね！でも何はともあれ、お酒はほどほどに飲むのが一番良いと学びました…ww

「モンゴル人と日本人の時間に対する考え方」

和田 真由美

私がモンゴルへ行って最初に感じた事は、モンゴル人はあまり時間を気にしない性格だということだ。モンゴルへ行く前から、メンバーから「モンゴル人は時間にこだわらずのんびりした性格」ということを聞いていたが、日記でも述べたように Ex 中も団体行動であるにもかかわらず予定よりも1~2時間ほどの遅れが出る事も多々あった。例えば、「8時半に出発」と決めても結局10時出発になってしまったり、次の日の朝食の時間を伝えすらなかったり、「バスで2時間」のはずが結局4時間かかってしまったりすることもあった。私は時間の流れが日本と異なりとてもゆったりしていることにも驚いたが、それ以上に誰も時間通りでないことに全く嫌な顔もせず容れないということに驚いた。電車は時間きっかりに来るのが当たり前、「時間厳守」が当たりの日本では考えられないことである。時間に追われながら生活するストレス社会の日本では、精神疾患患者数も多く、調べてみると（古いデータでごめんなさい）、精神病院の数は2006年現在で1,662であった。それに対しモンゴルの病院の数は2007年現在でなんと「1」であった。精神病という概念がモンゴルに浸透しきっていない、また設備が整っていないのでは、とも考えたがウランバートル市内ではビルが立ち並び、街ゆく人は流行りのおしゃれな格好をし、デパートではブランドの宝石や化粧品が売られているのを見て、その2点と人口の差の違いの点を抜いても、モンゴル人の明るく暖かくおおらかな意味での「適当な」性格が精神病院の数が少なからず影響しているのではないかと感じた。ストレス社会に苦しむ日本人は「時間厳守」の考え方を一旦お休みして、モンゴル人の時間に対する考え方を取り入れ、大自然に囲まれてゆったりとした、ストレスの少ない「モンゴル時間」に身を任せるのもいいかもしれない。

「モンゴルと中国」

丸 祐依子

モンゴルと中国の関係は良くない。良くないというかとても悪い。歴史的に何度も中国からの侵攻を受けたモンゴルは今でも中国に対する激しい敵対心を抱いており、モンゴル人と中国人の衝突事件はニュースにならないほど日常的に起きているらしい。また「娘が中国人と結婚したら一家の恥」という考えが今でも通用しており、選挙でも「あの候補は家系に中国の血が入っている」というのは最大のスキャンダルのようなのだ。

そんな私は今その中国でこのエッセイを書いている。なぜ私がこのテーマを選んだかという、このエッセイのテーマを考えている時に、Ex中にあるモンゴルメンバーに言われた言葉を思い出したからである。2人で互いの留学について話している際に「私は日本に帰ったあと中国に留学する予定」と言った後の「え？どうして中国？私は中国が嫌い。多

くのモンゴル人は中国が嫌い」という言葉である。中国に敵意を向けているモンゴルで「中国に行く予定」なんて言うべきではなかったのかもしれないが、その時私も別に今ほどその言葉を気にとめていなかった。日本でも中国のことを良く思っていない人もいるし、私もその時中国に対して良い印象というのはあまり持っていなかったからだと思う。しかし中国に来て私は中国の印象がすごく変わった。ここでは字数制限があるため何がどう変わったとかは書かないが、とても良い意味で変化した。だから今その言葉を思い出すと私は複雑な気分になる。私にとってはモンゴルも中国も大切な存在だからだ。モンゴルでは家庭教育で中国人に対する敵意を植え付けることが多いらしいが、私の個人的な意見を言うとしてすべての中国人に対して敵意をもつのは少し違うのではないかな？というのが正直なところだ。それは私も中国に来てから改めて感じるようになったことだが……。過去ばかりでなく現在も、モンゴルは経済を中国に牛耳られているなどといった問題はありますが、私はそういった問題等と全ての中国人をイコールでは考えてほしくないと思う。もちろんそういう風に考えていない人もいるだろうが、そう考えている人も大勢いるそうだし。簡単な問題ではないけど、この二国間だけでなく世界中が、国の印象＝その国の人の印象になりすぎないであってほしいかなと思う。

「変わりゆくモンゴルの文化」

野中 美紗子

私が今回のモンゴルEXで最も驚いたのが、モンゴルの輸入文化です。食料品や日用雑貨、テレビ番組に至るまでほとんどが欧米や中国・韓国からの輸入ものでした。

日本では自国の製品が8割9割ほどで多くの場合輸入品はスーパーの売り場にちょこんとある程度です。輸入品は関税が高いので少し贅沢したいときなどに買いますが、モンゴルでは日常生活の必須品として使用されていました。野菜や小麦、米などは本来の遊牧生活では食べられておらず、昔の遊牧民は乳製品と家畜の肉を食していたそうです。しかし、今日では、輸入品の小麦や米を使った料理がモンゴルの食文化の一部となっています。

また、モンゴルの学生は草原のことを「田舎」と呼び、自らも文化体験としてゲル生活に参加している様子が感じられたこともとても印象的でした。

フィリピンやベトナムなどいろんなアジアの途上国の文化を体験してきましたが、ここまで外国の文化が生活に溶け込み、それが自国の文化と融合している国は初めてでとても新鮮でした。現在モンゴルでは定住化が進み生活様式がどんどん変わっています。外国の味や音楽・考え方がこれから入ることで、モンゴルの人・文化が今後どのように変わっていくのか、ぜひ数年後また訪れてその変化を見てみたいと思いました。

「ウランバートルでのホームステイで気がついたこと。」

矢野 望月

私がホームステイした家はとてもきれいなマンションだった。トイレも水洗で、シャワー、パソコン、大型テレビもあり、予想していた以上に快適なホームステイ生活を送った。他の日本人メンバーの話を聞くとそうではない家も多く、ウランバートルでも7割の人は質素な家に住んでいるらしい。経済格差が大きいと言えるだろう。また、街の様子で一番気がつくことは「煙たさ」だ。空気が埃っぽいのだ。これは、歩道の工事を行っていること、車の排気ガス、そして工事現場にシートを使っていないことが挙げられる。歩道の工事というのは、単にブロックを剥がしたり壊したりして

いただけなのだが、これは聞いた話によるとあえて歩道を壊し、冬の仕事のなくなる時期に作り直すらしい。勉強会もあった、蓋の無いマンホールもあったがそれほど多くは無かった。

国会議事堂のある広場に行った際ここは本当に危ないから、とモンゴル人メンバーが心配そうに付いて来てくれたり、劇場の入り口で団長の鳥ちゃんがポケットに手を入れられたりと、観光客に対する治安の面での問題があるように思える。

私が一番衝撃を受けたのは交通マナーだ。まるで車線など無いかのごとくガンガン追い越し進んでいく。車間距離という概念はおそらくないのだろう。スピードも常に時速80キロは出ている。しかしこれについては北京でも似たような感じだったので、日本が特別マナーが良いだけなのだろうと思う。

「味付けから見えるモンゴル人の生き方」

谷川 美樹

モンゴルは最高だ。空気は澄んでいるし、大地も空も勿体ないくらい広い。それでいて人々もオープンで、ウオッカを飲むのも楽しい。シンプルイズベスト。この言葉の代名詞のようなモンゴルは私を童心に返ったような気分にさせてくれ、大いに癒やしてくれた。しかし、それ程までにモンゴルが好きになった私が唯一共感できなかったモンゴルの文化がある。それが「食」だ。モンゴル料理は日本人からすれば、はっきり言って「味気ない」。今まであまり存在を実感しなかった「うまみ」の大切さを実感する程、塩だけで味付けされた様々なモンゴル料理はシンプル過ぎた。(勿論美味しい物もあった)モンゴル人はこの単調な味付けで果たして満足しているのかと気になり帰国後モンゴル料理を調べてみると、モンゴル料理は伝統的に「赤」と「白」の料理に大別されるらしい。勿論、赤が肉で、白が乳製品だ。主食は小麦粉、米とされる事も多いが、基本的にはやはり肉を沢山食べる。そしてやはり、赤も白にも共通して言える特徴は、香辛料をほとんど使わない事だそう。どうやらモンゴルの寒冷な気候のおかげで、保存や消臭の為に香辛料が要らなかった事に由来するらしい。素材のまま過ぎる味を楽しむ。この食のあり方にもモンゴルが何たるかを教えられている気もするが、同時にプレートに盛られた料理を思い出してもう一つ思う事があった。このモンゴルの塩オンリールールを、添え物のピクルスや、お菓子が全く守っていないという事だ。調べてみるとピクルスは大方ロシア製で、お菓子は世界各国から来ているらしい。スーパーへ行っても外国産の物で溢れ、ウランバートルの食事は日本や西洋で食べる物と遜色ない味付けがしてある。ここからも分かるように、食料自給率の低さからか今モンゴルでは食に対する変化が進んでいるようだ。シンプルであること。モンゴルの生活の全てはこの言葉で集約される気がする。それは食も例外ではない。その食事が毎日にとっては味気なく、正直しっかりとした味のする外国産の食べ物に安心した自分もいたが、この食事が段々少なくなってしまうのではと考えると外国人のエゴか、少し寂しい気もする。様々な国の食事が入り乱れる日本で育った私が言うことではないが、伝統が壊れていくのは何だか残念な気持ちになるのだ。国際化が進み、国内の文化や風習も著しく変わりゆく現在だが、私がモンゴルで感じたシンプルで凛とした部分がいままでも残っていて欲しいと、食事一つ取っても思うのである。

「モンゴルの抱える社会問題」

鳥居 翠

1990年代初頭のソ連崩壊と COMECON 解体の影響を受け、モンゴルは民主化した。『モンゴル国』へと国名を改称し新憲法を制定した。ソ連崩壊によりモンゴルへの支援は途絶え、モンゴル経済は壊滅的状況になった。真っ先に社会福祉が削られ、国営企業は民営化する際に大規模な人員削減を行い、企業倒産も相次ぎ失業者が急増した。当時の失業率は60%とも言われ、アルコール中毒者が急増し、子どもへの虐待が社会問題化した。親から見離され、ホームレスとなった子供達が、1999年当時約3000名いたと言われている。彼らは30度の寒さを凌ぐために、暖房用の温水が通る暗闇のマンホールの中で生活しマンホールチルドレンと呼ばれていた。現在、欧米や日本などの民間団体や、国営の児童救済施設が設立され、多くの子供達が保護されたことで、マンホールに暮らしている子供は激減した。子ども住所特定センターは日常的にマンホールに南京錠をかけたりや路上を見回り、子ども達を保護する活動をしている。

しかし、新たな問題が発生している。モンゴルの首都UBは1990年代半ば人口60万人余りだったが、現在は90万人近くに急増している。地方に暮らす遊牧民が、異常気象により家畜が死滅し生活困難な状況に陥り都市部へ移り住んだからだ。急激な人口増加は深刻な社会問題となり、暴力や犯罪は以前にも増して多発した。町に移り住んだ遊牧民の殆どは最貧困層で住宅を借りる資金も無くマンホールの中で暮らし始めていて、マンホールチルドレン問題から、マンホールファミリー・アダルトへの問題と転化している。

また近年の法改正により、18歳以上は孤児院に住んでおけないことになった。日本と異なり、労働需要の絶対数が少ないモンゴルでは、高卒で働ける機会是非常に限られている。飲食店等で働くにも競争がある。就職には高度の専門性が必要とされる。孤児院運営の都合上、行き場がなくても卒院させるがその結果マンホール生活に逆戻りしてしまう者もいる。

現在のUBは訪行者が昼間楽しめるのはもちろんのこと、クラブ等夜間楽しめる場所も多数開業している。今でも街を歩けば、マンホールファミリーを見かける。ここでは成功し富を得た人々、月収数十ドルで働く人々、スリと置引で生計を立てる人々。あらゆる人が共存している。私も実際に劇場の入り口で物乞いをしている子どもに直面した。これはモンゴルだけに限ったことではないと思うが世界の多くの国々でも、特に首都には、無数の現実と生き方が存在すると感じた。

「伝統（馬）」

森 貴大

モンゴル人にとって馬とは、特別なもののようだ。それはモンゴル各地を見てもわかる。例えばウランバートル市内にある銅像に勇ましく表現されている人物は騎士であったり、土産物も馬にまつわる物が多い。当然、草原には馬が放牧してあったりと現地の人、観光客を含めて乗馬の様子を見る機会が多い。実際、遊牧民から端を発したモンゴル民族の生活、軍事の主力は馬であった。中国等の南方勢力は、この騎馬軍団を恐れた。それはアフターで行った万里の長城を見れば一目でわかる。観光地として栄えているこの万里の長城は、秦の時代に建設された。険しい山々の尾根伝いにそびえるこの石の要塞は、本当に見事なもので、圧巻だった。そして、それと同時に強く感じた事が「どれほどにモンゴルの騎馬隊が恐れられていたのか」という実証になっていることだった。だから、僕自身の感想としては、万里の長城の壮大な大パノラマは、中国の歴史的な先進を表現するだけでなく、北方勢力であるモンゴル民族の「馬」への脅威の

象徴となっているように感じた。このことをモンゴルの人々は良く理解をしていて、それがまた彼らの誇りになっているように思う。

「モンゴルの都市」

高木 靖典

実際にモンゴルに行く前と行った後で大きく変わったのは、ウランバートルという都市の印象だった。

軽く車に乗ってみるだけで建設中のビルが多く目に付く。ところどころ渋滞があり車の台数も多い。デパートは、混雑しているし、夜景も光り輝いている。スラムも存在するが、一時的に暗い印象を与えない。しかし、盛り上がっているのは事実だが、日本や中国の都市の持つ集中性、人と物の集まりによる熱気は感じられなかった。異なるのは、でこぼこの道路や蓋のないマンホールだけではない。ウランバートルはまだ欲望の自立性が感じられない。

市場経済と年 4%以上の人口増加と成長、都市化がウランバートルで進んでいるのは確かだと思う。もちろん、短期間であるが、ウランバートルでの買い物や食事、人の格好を見て思うのは、モンゴル人の欲望の多くは必要性の上にあるということである。すなわち、基本的に必要だから買うのであって、トレンドや広告による感情の刺激が出発点の自然な必要性から乖離した無限ループではない。欲望が欲望を刺激し、生み出す、他者優越や同調性の力が未発展のため人々は、比較的強い集中性をもつ。その結果として、都市化が進んでいるとはいえ、人々の欲望による熱気、集中性が感じられなかったのだと思う。

しかし、資本主義を採用した以上、モンゴルもいずれ日本や中国のように資本主義それ自体が変化していくのだろうと思う。たとえそうであっても、モンゴルの自然と星空を破壊し、成長の限界とするような形になってもらいたくないと思う。

「モンゴルの食生活」

畠中 佑紀奈

モンゴルは伝統的に、「赤い食べ物」と呼ばれる肉料理と、「白い食べ物」と呼ばれる乳製品に大別されます。主に、「赤い食べ物」を冬に、「白い食べ物」を夏に食べます。モンゴル料理で使用されるお肉には、羊、馬、牛、ラクダ、ヤギで、その中でも羊はモンゴルの食生活に重要な家畜です。モンゴルで食べた料理に入っていたお肉は大体が羊でした。また、モンゴル料理は香辛料を使わず、塩とねぎなど薬味だけのシンプルな味付けが一般的で、塩は肉の旨みを引き出す岩塩が用いられます。最近では、ケチャップなど海外から輸入された調味料も使用されています。

乳製品は、羊、馬、牛、ラクダ、ヤギ、ヤクから搾乳され、生乳を飲むことはなくまず加熱します。この時、柄杓で乳を泡立てながら加熱し、そこからアーロールやヨーグルト、馬の乳だったら馬乳酒を作ります。馬乳酒は、血圧を下げたり、免疫力を活性化させる効果が認められています。

また、伝統的なモンゴル料理では、野菜をあまり使いません。国全体が野菜の栽培に不向きな環境にあり、入手が難しいことが原因だと考えます。スーパーに並んでいる野菜の多くは輸入されたものだそうです。日本の食生活からすると、お肉が中心の食事、すべての栄養を補えるのだろうかという疑問になりますが、夏の間に食べる乳製品や、毎日飲むお茶により、必要な栄養を補っているそうです。馬乳酒は、ビタミンCを含んでいるので野菜を取らない遊牧民にとって貴

重なビタミン補給源です。近年は、輸入食品の増加により都市の人々の食生活は多様化してきています。

最後に、食事のあいさつについてです。一応「サイハン ホールツゴイー（いただきます）」「サイハン ホールロー（ごちそうさま）」という言葉がありますが、モンゴル人の普段の食卓では、食事をよそってもらった人から、そのまま無言で食べ始め、食べたあともとくに何も言わないそうです。

「習慣」

小林 李奈

日本人からしたらたまに不思議だと思ってしまうような習慣をもつモンゴル人。私は三つの習慣を取り上げます。

一つ目は、相手の足を間違って踏んでしまったり蹴ったりしてしまったとき、お互いに握手をすることです。私はモンゴルに行く前にこの習慣を知りましたが、若者はやらないのではないかとそのときは思っていました。しかし、実際に若者もやっていたので驚きました。握手する理由は、敵ではないことを示すためです。騎馬民族の性質が表れているような気がしました。

二つ目の習慣は、人から食べ物や飲み物をすすめられたときは一口だけでもいただくようにすることです。ウォッカをコップに注いでいただいたとき、そのような習慣があるということを知りました。コップを受け渡しするときは、左手を右手のひじに添えることが礼儀です。

三つ目の習慣は、モンゴル人は「ありがとう（バヤルララー）」という言葉めったに口にしません。小学校の国語の教科書でこのことについて知ったような気がします。「バヤルララー」は価値があることにに対して言う言葉なので、あまり多用するのはよくないそうです。

「首都・ウランバートルの風景」

喜納 しずか

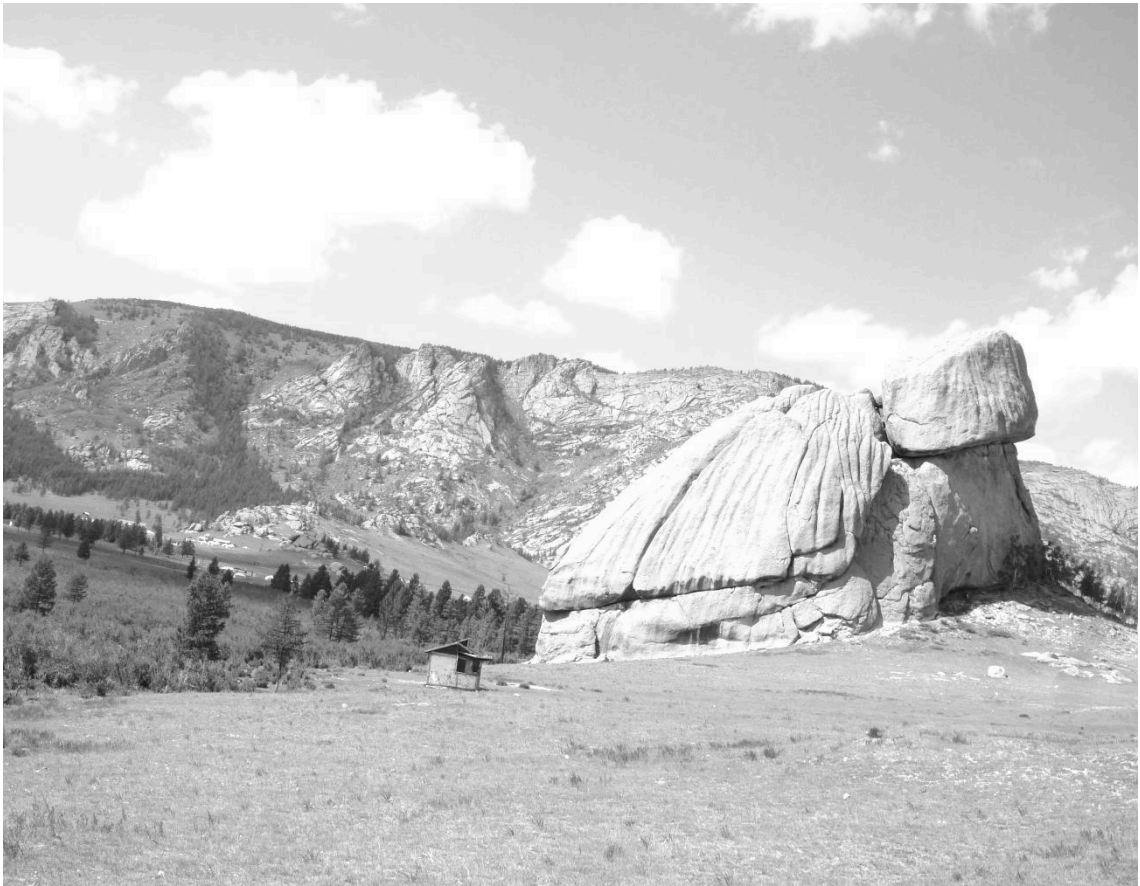
ほこりっぽい。砂っぽい。車が多い。道の舗装ができていない。

ウランバートルの風景は3年前とほとんど変わりなく、草原の澄んだ空気からは考えられない息苦しさだった。夏になると、道に敷かれている煉瓦は全てはがしてしまうそう。理由は明確でないが、「毎回よりよくしようと思ってやっているのだろう」とのことだった。しかし、ただ煉瓦をはがして放置されたままであり、むしろ煉瓦をはがすこと、そのはがした上を歩くこと、車が通ることでさらに煙たさが増している。

車の多さは以前来たときよりも増えているのではないかと感じた。そして、とにかくみんな思いやりがない運転である。道は譲らない、飛ばしまくる、クラクションは常にどこかで鳴り響いている。こんな危険な交通事情を見てしまうと、日本に帰れば私でも余裕しゃくしゃくで運転できるのでないかという錯覚を覚えた。

3年前にも感じたが、ウランバートルはまだまだ発展途上である。これから先、「大自然があるモンゴル」の環境を守りながら、その自然を残しつつ発展もしていけるようにする姿勢が必要であると感じた。次にモンゴルを訪れた際には何か変化がみられるのではないかと期待したい。

フリーエッセイ



「流れ星」

中江麻未

私はモンゴルで生まれて初めて流れ星を見ました。Ex 期間中何度も星を見ましたが、山に登って見た満天の星空が忘れられません。この時ちょっと大げさですが「私今死んでも後悔しいひんなー。」と思えるぐらいの星空で本当に本当に感動しました。星空以外にもモンゴルでは本当に素晴らしい大自然と触れ合う事が出来ました。果てしない青空や大地たくさんの動物達、そして一生忘れる事がないであろうあの星空。日本では体験できない広大な大地でのゆったりした時間の中で、心が洗われ優しい気持ちになり、日本に戻っても頑張ろうと感じる事が出来ました。モンゴルでのゆったりとした時間をこのモンゴル Ex のメンバー達と学生である今、体験出来た事はとても貴重で私にとってかけがえのない時間になりました。もしもう一度モンゴルの大草原に戻って流れ星を見る事が出来たなら、「モンゴル Ex メンバーがいつまでもモンゴルで感じた事を忘れずに、この関係を保つ事が出来ますように！」とお願いしたいです。モンゴル Ex で出会った 25 人の日本人メンバー、そしてモンゴル人メンバー10 日間本当にありがとうございました★

「大陸」

荒川 源太郎

8 月 9 日モンゴルを上空から見たときの感想は「広っ!!!」だった。これが僕が初めてのモンゴル、そして大陸を見て思ったことだ。モンゴルの人々は昔からこの広い草原でふらふらと遊牧をして暮らしてきた。そう考えるととても自由な暮らしじゃないかと思っていた。好きなときに好きな所で暮らす、遊牧民族ならではのなあと思う。少なくとも土地にこだわる日本人のような農耕民族とは考え方からして違うようだ。最近、福島の避難民の方をテレビ番組でインタビューしているシーンを見たが彼らは「福島に帰りたい。」と言っていた。ひょっとしてモンゴル人の人なら、「じゃあ別のところに住めば良いやん。」というのではないかな。でも自由な暮らしと言っても、農業も出来ないところだからこそ遊牧をするのであって冬は-40℃とかでめっちゃ寒いらしいね。

そんなこんなで約 1 週間を草原で過ごしたんだけど当たり前に虫がいて、草が生えて、広くて、星が綺麗で、人は面白くて、開放的でした。心が洗われるってこういう感じなんではなか？

とにかくモンゴル最高でした。

フリーエッセイ

辻 早紀

モンゴルで過ごした10日間は今までにないくらいゆったりとしていて穏やかで、でもすごく濃い時間を過ごすことができました。大自然の中でちっちゃい頃に戻ったみたいにはしゃいで遊んだり、ウォッカでモンゴルの洗礼を受けたり、夜は寝袋を持ち寄って流れ星を数えたり…。モンゴル人メンバーも日本人メンバーもそれぞれに印象深くて楽しい人たちばかりだったのでこんな楽しい思い出がいっぱいできたんだと思います(´▽`)ありがとうございましたっ!!!また絶対モンゴル行きますー(´・ω・´)

フリーエッセイ

嶋村 耕作

ベジタリアンにはちょっとキツイかも。

ジャパンメイドの車が一杯走ってました。

I♡モンゴル

タカヒロ・モリには色々お世話になりました。…さほど面白くは無かったけど。

のほほんとしまくった2週間でした。

愛すべきモンゴル人メンバー、日本人メンバーのみんなに感謝。

車がメッチャ多かったです、ウランバートルは。渋滞もちらほら。

はっちゃんには毎日爆笑させてもらいました。

レクサスも結構走っててビックリしたなー。

ガーリック的な味が恋しくなります、モンゴル料理はちょい味薄め。

シロも面白かったなー。すぐ人のネタをパクるけど。

イイッパイ素敵な思い出ができました。

↑縦読みすると…(E x メンバーにしか分からん、どうでも良い情報ですいませんw)

フリーエッセイ

高安 空

モンゴルに行ってから、人生観がすごく変わりました。というより、気付いたことがたくさんあったって言う方が正しいかも。

たとえば、水があるのって当たり前じゃない。モンゴルは木も少ないから、遊牧民の人は木の代わりに乾燥した家畜の糞を燃料として使っている。それを見て衝撃を受けました。それで牛乳煮るんかいって正直思った(笑)でも、こんなに何かを大事に使っている人を見るのは初めてで、こんなに何かを大事にしなきゃいけないって感じたことも初めてで。そ

っか、物があるって当たり前じゃない、あたしも大事に使わなきゃって思いました。

それから、自分の駄目なところがたくさん見えました。日本の駄目なところもたくさん見えました。モンゴルに比べて、日本ってなんて窮屈なところなんだろうって思うと、日本ってやだなと思っちゃって。日本の素晴らしさを語ってくれるモンゴルメンバーに、胸を張って日本が好きだって言えないのが悔しく感じました。大草原の中にいると、自分のことに対しても考える時間ができて、自分の性格どうにかならないかなとも思っちゃって。でも、帰国してからは日本の治安のよさ、交通の安全さ、人の優しさ、料理、他にもすごくいいなって思えるところにたくさん気付いて、自分の国に誇りを持つことができました。今は日本が大好き!! 自分のことも、本当に好きになりたいなって思います。とりあえず、人見知りをなくして社交的になりたい(笑)

本当にモンゴルへ行ってよかったです。しかも一回生で行けてよかった。一回生で行ったからこそ、気付けたことや身に付いたことがあったような気がします。日本での生活を頑張っ、ISA の活動にも積極的に参加して、成長して、成長した自分でまたモンゴルに行きたいです。行けたらいいな。今からすごく楽しみっ!

フリーエッセイ

村上 園実

このモンゴル Ex は私にとって初めての ISA のプログラムでした。他の参加する人達はもとからみんな友達なのかな・・・とかモンゴルの人って怖いのかな・・・といった不安を出発前は抱えていましたが、そんなことは全くの杞憂でした!! 日本人参加者もモンゴル人参加者もみんな明るくて面白い上にとっても親切で、私のモンゴルでの滞在はとても楽しいものとなりました。

ただ一つ残念だったことは、Ex が始まって最初の頃、モンゴル人メンバーとそこまで喋っていなかったことです。この原因は私が照れて、自分の殻に閉じこもってしまったからだなあと帰ってきた今反省しています。恐らく違う文化に触れて、自分がショックを受けないうちに、無意識のうちに警戒していたのかもしれません、

ですが、日が立つにつれ、次第にモンゴル人メンバーともたくさん喋るようになってきて、私は何を心配していたのだろうか和马鹿らしくなりました(笑) 違う文化に住む人でも、人は人。同じ国の人でも、考え方が違う人がたくさんいる一方で、違う文化の人でも似た考えの人はたくさんいると思います。結局、人の性格・習慣・考え方が違うのは当たり前と気づきました。

たくさんのことを気づかせてくれたモンゴル Ex。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

フリーエッセイ

西脇一樹

モンゴルの大草原に立つ。青い空。白い雲。360度の地平線。どこまでも続く道。

その道を自分の足で歩く。道は延々と途切れない。

草原の夜。皆が寝静まった頃夜空を見上げる。静寂。目前には満天の星。流れ星流れ星。

日本では決して感じられない圧倒的解放感、全身で感じた自然の雄大さ。あんなに心を空っぽにしたのは初めてかもしれない。あれだけ「素」の自分でいられたのは初めてかもしれない。

モンゴルでの時間は心に自由をくれた気がします。

もっとシンプルに。

もっと自分に正直に。

もっとさらけだしてもいいんじゃない？

「らくだについて」

鳥山 昂史

モンゴルの遊牧民体験のときに会ったラクダ、ラクダについてあまりにも何も知らなかったのでラクダについてちょっと調べてみた。

① ラクダのこぶ

水とか貯めこめるのではって言われていた時期もあったけど、今ではそれも科学的に否定されており、脂肪をため込んでる袋が入った器官だと分かっているらしい。皮下脂肪がこぶに全部たまっているらしくそのお陰でエネルギー維持はもちろん断熱材になるとか。僕的にはへにゃんって片方だけ袋がしおれてるラクダが気だるような雰囲気でのいるのが記憶に残った。

② ヒトコブとフタコブの違い

こぶの数っていう違い以外にもヒトコブの方が体格が大きく、より暑い地域に生息する

ために断熱材となるよう膝の皮膚が発達している。一方フタコブは体毛を増やすことで寒さに対し強くなっている。

ラクダを直で見たのが初めてやったので見れてちょっと感動してた。他にも日本の家畜ではなかなか見れない動物が居たので本当はもっと紹介したかった…

フリーエッセイ

難波江 信行

以前から海外に行きたいと思っていましたが、なかなか機会がありませんでした。そしてたまたま同じ学部友達に誘われて入った ISA で夏休みにモンゴル行けるという話を聞いて、夏休みどうせ暇ならモンゴル行ってみようかな的な軽い気持ちでモンゴル行くことを決めました。そんな気持ちでいったモンゴルで過ごした 2 週間がこんなに充実したものになって本当によかったと今では思っています。この 2 週間一緒に過ごしたメンバーからはたくさん学ぶこともあって、本当に感謝しています。これからの大学生活において、このモンゴル EX の経験というものは重要なものになっていくと思っています。またモンゴル行きたいなーって感じです。そして別の国にも足を運んでみたいなと思いました。

フリーエッセイ

橋本 直樹

僕にとって初めての海外旅行が、このモンゴルでした。出発する前は、「モンゴルか〜」と、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、上回生である 3 年、4 年の方々がたくさんいらっしゃって、とても頼りがいがありました。同回である 2 年生にも、たくさんお世話になったし、下級生の 1 年生にはたくさんパワーをもらえました。

僕たちは参加するから、甘えてしまう気持ちを持ってしまった。しかし、モンゴルの方からは、迎える気持ち、もてなしの気持ちを、感じました。全てを企画していただき、本当に感謝の気持ちしかありません。特に最後のホームステイ先では、御飯から洗濯までしていただき本当に感謝です。「至れり尽くせり」とは、このことなんだと実感しました。今度僕が「至れり尽くせり」をしてあげる番だと思いました。

本当にモンゴル EX に参加して良かったです。人と人とのつながりを、日本におった時よりも深く感じることができました。自分自身の価値観が変わるし、またそれに気付くことが楽しいです。先にも書きましたが、最初の海外にしては「失敗かな?」と思いました。それが大正解でした。「え〜?モンゴル?」と言う人ほどモンゴルに言ってほしいです。それが僕自身やったからです。

フリーエッセイ

塩崎 柚香

私がモンゴル Ex に参加した理由、それは、ささいなことがきっかけでした。ISA の新歓に行ったときのこと、去年モンゴル Ex に参加した人からモンゴルの魅力について聞きました。

「見渡す限りの大草原、空一面の星空、らくだに乗れる」

外国に全く興味がなかったはずなのに、モンゴルという言葉が頭から離れずモンゴルに対してだんだん興味がわいてきました。そして、ことはとんとん拍子に進み、いざモンゴルへ！

モンゴルについた途端、現地の人とコミュニケーションがとれるのかと不安になりました。しかし、そんな不安などいらずモンゴル人の皆さんは日本語がお上手☆逆にモンゴル語を教えてもらいました。

空港から目的地に着くと、そこは大草原！！相当な田舎に住んでいた私も壮大な大自然に感動しました。そして、夜には満点の星空に無数の流れ星（☆彗☆）までもや、感動しました。

約10日間共に過ごす、たとえ言葉が多少通じなくても仲良くなれると分かりました。日本語が全く分からない子どもとも仲良くなれました。何も知らない異国の地なのに、たった10日間だったのに、離れたくありませんでした。それは、日本人メンバーとモンゴル人メンバー全員が家族のように思えたからです。すごくすごく楽しかったです。モンゴル Ex に参加して良かったです。

モンゴル Ex、大切な思い出です。

<フリーエッセイ>

山端 麻依

なにもないモンゴル

モンゴルは本当に、いい意味でも悪い意味でも「なにもない国」。「なにもない」と書いてしまうと語弊があるかもしれないが、現地に入って一番初めに抱いた感想がこれだった。

国の産業がないからスーパーの食料品や、日用品でさえほとんど輸入品の寄せ集めだし、ウランバートルの街中でさえ歩道の整備はされていなかった。郊外の道路などはすべてボコボコだったし、電気や水が満足以供給されていない所など山のようにある。もちろんわたしたちが暮らした草原にはもっとなんにもない。

でもそんな「なんにもなさ」が、なんでもそろそろ日本から来たわたしにはとても魅力に感じた。特に草原での暮らしは本当に魅力的だった。なんにもさえぎるものがないだけ広い草原が美しく感じた。電気がない分空の星が輝いていた。空気が美味しく感じた。

今世界中のトレンドは「グローバル化」で、世界均一で何でもそろそろ、不自由のなさが美德とされているけれど、モンゴルみたいに、いい意味で「なんにもない」国が世界に一つ

くらいあってもいいんじゃないかな、と思う。特にモンゴルの草原は 10 年後も 20 年後もそのままであってほしい。

お風呂に毎日入れなくても、電気がなくても、ご飯がおいしくなくても、存在する幸せって確実にあるんだな、とモンゴル EX に参加することで気づくことができた。

フリーエッセイ

細川 真菜

流れ星見たいな一。人がめったに行かない場所に行きたいな一。乗馬したいな一。そんな思いで参加したモンゴル EX。たくさんの出会いや貴重な経験をする事ができました。

まず、草原での生活。虫の多さや昼夜の気温の違い、ご飯。戸惑う事もたくさんありました。でも、何日間か生活するうちに気付いたら慣れてました。また、遊牧民の生活を実際に見たり、乳製品作りを体験できたのはとても貴重でした。でも、やっぱり同じ乳製品でも日本のものとは違って独特のくせがあって、口に合わないものがほとんどでした…

他にも、丸とぼんずと毎日最低一回山登りして、撮影会したり、ショーもないこととして爆笑するのが超楽しかったです。そして、この経験から度胸と体力を身につけました…w
w

ホームステイも楽しくて、マンダとバヤルマが毎日美味しいご飯を作ってくれたり、一生懸命日本語でモンゴルの話をしてくれようとする事がとても嬉しかったです。そのおかげで、ホーショールというモンゴル料理と一緒にみんなで作る事ができたし、モンゴルの生活というものを詳しく知る事ができました。でも何よりバヤルマが、私が昼寝をしている時にストールをかけてくれたり、私の乾燥した肌を見て、寝ている私に顔パックしてくれたり…そんな小さな優しさが嬉しかったです。

EX は、他国のことを知るチャンスでもあります、やはり私は人との出会いの大切さというものをいつも深く感じます。異なる国でも、人と人とはつながっているんだということを改めて考えさせられました。このせつかくの出会いというものを今後も大切にしていきたいです。ありがとうございます。モンゴル大好きです。

「モンゴル EX を終えて」

和田 真由美

私がモンゴル EX に参加しようと思った理由は、満点の星空を見たい！大自然の中で生活してみたい！モンゴルについてもっと知りたい！大学生のうちにしか出来ないことをしたい！人見知りで臆病でネガティブで、勇気もやる気もないダメダメな性格を変えたい！と思ったからです。今モンゴル EX を振り返ってみて、どの願いも叶い本当に本当に充実したものであったと思います。

印象に残っているのは、やっぱり満点の星。360° 見渡す限りの草原。

楽しいモンゴル&日本人メンバー。

レストランの子供のサルネイ&遊牧民もんちっち。(すごく可愛くて一緒にいるだけでほんとうに毎日楽しくさせてくれた、)

寒すぎる夜。

寒すぎる夜。

、、、、寒すぎる、夜。

モンゴルの大草原でみんなとゆったりとした楽しい 1 週間を過ごし、悩んでいたこともなんてちっぽけなことなんだ、と感じられるほど自分と向き合う時間をたくさん得ることもできました。またモンゴル人の暮らし、食、国民性、経済状況など、様々な事を見て食べて体験することが出来、行ってみなくては分からない本当に多くの事を学べたと思います。(モンゴル人男性の好きな女性への熱烈なアタックの仕方なども笑)この Ex は私のはじめての国際交流だったので、これを良いきっかけとしてもっともっと多くの国を知り交流していきたいと思います。私は 2 回から ISA に入ったのでまだ右も左も分かっていませんが、なんてすてきな部活なんだ！と感じるほど本当に楽しくて充実した有意義な Ex でした。ISA、モンゴル&日本人メンバー、ジャギーさん、そしてモンゴル、みんなだいすき&ありがとう！！

「モンゴル Ex を終えて」

丸 祐依子

私がいつも誰かと出会って、その人と仲良くなって思うのは、「・・・あーもしここに来てへんかったらうちはこの人と今こんな風に笑い合ったり、こんな馬鹿なことし合ったりできなかったんやろうなー」ってことです。いや当たり前なんですけどね(笑)

でもいつもそういう時私はこの場所にいて良かったなーって心の底から思います。今回のモンゴル Ex についても同じです。もしモンゴル Ex に参加してなかったら・・・って想像しちゃうと怖くなっちゃいます。だってそしたら今あるモンゴルでの素敵な思い出が全部存在しないわけじゃないですか(´；ω；`)そう思うと恐ろしや恐ろしや・・・

いやねモンゴルに行っていなかったらそういう発想もしないってこともちゃんとわかってるんですけど、行った今思うと、もし参加してなかったら怖いなーってやっぱり思っちゃいます。・・・なんか何が言いたいのかさっぱり分かんなくなっちゃいましたが、要はモンゴル Ex に参加することを決めた自分グッジョブってゆうことです(笑)だって私モンゴル Ex に参加した理由 90 パーセントくらい多分なんとなくだから、参加してない可能性も十分にありましたもん><だからアプリケ締切日の 23:59 にでもちゃんと送った自分ナイスみたいな？・・・え？それは違う？

でもモンゴルに行っていなかったらモンゴルの人にはもちろん、日本人メンバーの人とも出

会えてなかったり、今ほど仲良くなれないまま終わってしまっていた人もきつといたと思うんです。だから本当にモンゴル行って良かったなーってめっちゃ思います☆!!

モンゴルメンバーや日本メンバーと色んな話をできたことも、日本には無い興味深い草原での文化や習慣を体験できたことも、今まで見たことない綺麗な流れ星を見れたこともどれも大切な思い出です。ピロシキを食べてから7日間ほどずっとお腹ピーゴロゴロで1日にトイレ4回くらい行っていたことも、ゲルでシャワーを浴びてるときに全身泡だらけの状態の時に湯がでなくなって、飲みかけのペットボトルの水で寒さに耐えながら泡を流したことも、サンダル×2だけしか持って行っていなかったために家畜ちゃんたちのうんこをほぼ生足で踏みまくったことも今じゃ全部素敵な思い出です(*´▽`*)あはほんとに何が言いたいのかよく分かんない文になっちゃったけど、ちょちょちょいとまとめさせて頂くと・・・・・・・・モンゴル Ex 大好きだーーーーー♥♥

・・・とゆうことなのでした☆

本当にかげがえのない思い出をあざっっす(>0<)♥

「モンゴルのこどもたち」

野中 美紗子

私は今回のモンゴル EX でたくさんの子供たちと遊びました。サルネイ、ちびザヤ、モンチッチ、モンチッチのお姉ちゃん、ブーヒー、ビルグン・・・みんな明るく元気いっぱい、いつも私たちを和ませてくれました。そんなモンゴルの子供たちを見ていて驚いたこと、感心したことベスト3を紹介したいと思います！

ではまず第3位！『たくましく育て！モンゴルの子育ては放任主義？！』

子供たちはたいてい一人でふらっと遊びにやってきます。見ると既に泥だらけ。きつとどこかで一人で遊んでいたのでしょう。顔には鼻水、口には茶色くなったガム・・・日本のママたちが見たらきつとアルコールとティッシュを持って駆けつけてくるでしょう。でもモンゴルでは違うんです。親は滅多に姿を現しません。きつと仕事があるのでしょう。子供たちもそれが分かっているのか、転んでも泣きじゃくらないし、夕方になると自分でトコトコと家に帰っていきます。子供たちは楽しいことも危ないことも自分で経験し、そこからたくさんのことを学んでいるんだなと感じました。

次は第2位！『外国人だろうとおかまいなし！聞いて聞いてとしゃべりまくる』

子供たちはめちゃくちゃしゃべります。犬にも虫にも私たち外国人にも。何を言っているのか全く分かりませんが、伝わっていようといまいと関係ないようです。相手の言葉が違うと分かると私たちはついつい口を閉ざしてしまいませんか。こんな風に臆せず話す度胸、見習わなきゃと思いました。

そして第1位！『小さな姉・兄の大きな心』

モンチッチとお姉ちゃんが二人で遊びにきた時のこと。何があったのか、モンチッチは突

然お姉ちゃんを叩きだし、お姉ちゃんの顔は怒りでカンカン！しかし妹には一切叩き返さず、一人遠くに行ってうずくまり、ひそひそと泣いているようでした。すると今度はお姉ちゃんが離れてしまって悲しくなり泣き出したモンチッチ。私たちがお姉ちゃんのもとへ連れて行くと、さっきの喧嘩はなかったかのようにお姉ちゃんは妹を抱っこして慰めてあげていました。また、ブーヒー(7)に色鉛筆を貸そうとしたきのこと。やんちゃな暴君ビルグン(3)がバラバラにして壊すと思ったブーヒーは、絵を描きたい想いを抑えて色鉛筆をいらないと断りました。その後ビルグンがよそに行ったので貸してあげると、大切に扱い、ビルグンが帰ってくると、『あっちにいけ！』とは一言も言わず彼の気を悪くしないよう、こっそりと自分が部屋の隅っこに行き色鉛筆を移動させて守っていました。お姉ちゃん、お兄ちゃんの常に自分のことを我慢して下の子に気を使い、守ってあげる立派な優しさにとっても感動しました。

フリーエッセイ

矢野 望月

モンゴル・・・と聞いて思いつく事といえば草原と相撲。これは日本に侍と忍者がいると思っている「コニチワ」外国人と同じレベルだろう。そんなステレオタイプ外国人の私が、帰国しモンゴルどうだった？と聞かれて初めに答えることは、虫が平気になったよ。だ。草原の写真には虫は写らない。もちろん糞も。風にもお日も夕日も月も星空も流れ星も UFO も見渡す限りの草原の開放感も、リポビタン D の CM か！ファイト一発か！とつつこみ合いながらしたロッククライミングの迫力も、山の標高も、写真には写らない。伝わらない。本当はものすごい高さの山に登ったのに。友達に見せても、山・・・？と言われる。本当はすごい高さなんだよ、見てこの風になびく髪とあまりの高さにひけてるへっぴり腰、と言ったってへえ・・・と言われる。伝わらない。くそう。めっちゃ高い山なのに。だから写真はあまり撮らなかった。決してデジカメのバッテリーを持って行くのを忘れて携帯の写メしか手段がなかったからではない。そんなことは断じてない。写メを撮ってみてもどこか違うのだ。伝わらないのだ。行って、体験するしか術は無い。だから、モンゴル Ex のムービーや写真、この報告書を読んでモンゴルを分った気になりかけているそのあなた。甘い。全然分っていない。分った気になんてなれる筈がない。なぜならあなたは夜空の星が手に届きそうな程大きくて近いような、草原を一步踏み出す度にバッタが五匹飛び出すような、そんな状況、想像も出来ないだろうから。

モンゴルへのラブレター(*v.v)

谷川 美樹

自然を、人間を、ありのまま大事にする。私はモンゴルのこういう風な生き方が好きです。彼らから直接「このスタイルを大切にしている」と聞いたわけではありません。しかし、モンゴルの国のあり方や人々の言動から伝わってくる何かがあるのです。きっとそれが冒頭の一文みたいなものなのだと思います。草原には土地の所有制度がないから柵がない。若い動物は殺めない、あくまで死にゆく老いたもののみ。旅人を拒まない遊牧民たち。若者の恋愛だってとってもオープン。こんな風に、自然のサイクルに身を任せながら生きる彼らの生活は、普段システム化された都会で生きる私たち日本人にとって刺激的であり、羨ましくもありました。モンゴルは現在急速なスピードで発展していると言われていますが、果たして本当に発展する事が正しいのかなとモンゴルの草原にいと何の根拠もなく考えてしまうのです。それくらいありのままのモンゴルがいつの間にか好きになっていました。最初に空港に降り立って、バスから景色を眺めていた時は「本当に草原がずっと広がってるんだなあ」としか思わなかったモンゴルを、今、物に溢れた国日本に居ても、帰りたいなあと感じてしまいます。非日常を感じる為行ったモンゴルでしたが、逆に彼らの「日常」に触れる事ができ、それが忘れられないものになりました。・・・なんて、堅苦しいことを書きましたが単純に、モンゴルでの生活が本当に楽しかった！！これを、声を大にして言いたいのです。草原で過ごしたりウランバートルで夜な夜な遊んだり、そういった事も勿論素晴らしかったですがモンゴルメンバー・日本人メンバー、みんなと楽しい時間を過ごせたっていう事自体が本当に嬉しかったです。みんなとの出会いに感謝しています！10日間の思い出や、モンゴルから教えてもらったありのままを受け入れる心は私の人生の宝物になりました。バイラルーモンゴル、バイラルーみんな！

フリーエッセイ

鳥居 翠

草原や満天の星空をぜひ見たいと思い参加しました。トイレ・シャワー・虫…かなり不安要素はあったけど、学生のうちしか経験できない！と思い切って参加申し込みました。実際草原につくと、シャワーもトイレもあって想像していたよりもはるかに快適に過ごすことができました♪虫に関してはもはやいちいち驚いても怖がってもしようがないという状況で…、まさかバツタさんと笑顔で2ショット撮ることになるとは！

どこまでも続く草原と広い広い空。天然のプラネタリウム。乗馬。放牧。昼の日差し。夜の寒さ。日の出ならぬ月の出。夕焼け。ウォッカ。大自然を満喫しまくりました。夜の散歩でゲルの横から急に牛が現れたのにはびっくりしたなあ。草原は何もないって聞いてたから、毎日ま〜ったり過ごすのかなと思ってたけど、日本にいる時よりもアクティブだった！毎日が充実してました。モンゴル Ex.に参加して本当に良かった。アプリケまゆみと

締め切り前に学校の PC 室にこもって完成させて本当に良かった。

町は、建設中の建物や整備中の道がたくさんあって活気に溢れていました。4 年後とかに行ったら街もだいぶ変わってるんだろうなあ。

モンゴル人は、見た目はアジア系だけど、中身というか精神は欧米系だ。これはモンゴルに着いたときにジャギさんに教えてもらったことだったんだけどモンゴルの人と過ごせば過ごすほどそれを実感しました。かなりフレンドリー。またそれは街の建築物でも感じる事ができたように思います。日本人とは違う。国民性ってあるんだなと思いました。

振り返っても本当に良い思い出ばかり。閑空に帰ってきたときりなとまゆみほんとにモンゴルシックになってたくらい。草原でも街でも毎日が充実していてとても楽しかった。本当にまた行きたい！！

「相撲」

森 貴大

モンゴルへ行って感じる事の一つに、非常にこの国は親日的な国である事が挙げられる。これは、例えば経済的にも日本企業がモンゴル経済の発展に一翼を担ってきたからかもしれないし、東アジアのパワーバランスを考えた時に日本が自然と友好的な国家として挙がってきたのかもしれない。ただ、確実に言える事は、相撲という国技がこの日蒙友好の懸け橋となっていることだ。相撲中継はダイレクトでモンゴルでも放送され、高視聴率の維持している。朝青龍などは誰もが知っている有名人である。そしてこれは僕自身にとっては意外な事であったが、モンゴルの人々は、モンゴル力士以外の日本の大関などの名前も良く知っている事だった。これは勝手な僕自身のイメージであったのだが、モンゴル力士と日本力士。もっと具体的に言えば、朝青龍がその他全般の日本人力士を相手に勝っていくさまがある種の相撲人気の側面にあるのではないかという感覚を持っていたからである。もちろん、その事が全くないとは言えないが、例えば魁皇という日本でも人気のある日本人力士の名前は良く知られているし、非常に好意的に受け入れられているようだった。そのことからわかるように、日本の相撲はモンゴル対日本という構図ではなく、相撲そのものに魅力を感じ、モンゴルの人々は中継を楽しんで見ているようだった。これは日本人としてとてもうれしく感じ、また、一種のモンゴル力士に対するアンチテーゼがはたらいている相撲界に疑問を持つきっかけとなった。

フリーエッセイ

高木 靖典

モンゴルでの日々で教えられること、気づかされることが多くあった。多くの人にとってモンゴルに行くきっかけはそうそうないと思う。自分が大変に幸運であったこと、この Ex を作り、維持してこられた多くの方々に感謝したい。

当初は 10 日という日数は長いように思っていたし、情報の入ってこない環境に寂しさを感じるだろうと考えていた。モンゴル人メンバーはおろか、日本人メンバーにも知り合いが少ない環境にも不安感があった。ある意味、それがあったからこそ、友達はモンゴルに行くことを勧めてくれたのかもしれないし、自分自身参加しようと思ったのかもしれない。

モンゴルに着いて、知ったことは、自分の適応能力とモンゴル人や日本人の枠組みを超えた人の魅力であった。なにも情報がない、それほど予定があるわけでもない、いつの間にか時間がすぎていくのに、充実した時間。モンゴルの空気や時間、虫たちに感覚や体が適応していくのを感じた。予定や情報で満たしてきた意識のなかに、メンバーのそれぞれの魅力や人間性が注がれ、ありふれた、あるいはただ存在する空間と時間を濃厚なものに変えていった。

日本に帰ってきて、何が変質したのかあらためて考えるのは楽しいし、こころの中にモンゴルを思い出し、そこで感じたものを日本において大切にすることもおもしろい。これを誰が読んでいるのかはわからないが、閉塞感を感じるなら、モンゴルに行ってポカーンとするのも一興だと思う。

最後に、Ex に関わるすべての人と今回のメンバーに感謝したいと思います。ありがとう。

「モンゴル Ex に参加して」

畠中 佑紀奈

モンゴルで最初に感じたことは自然の雄大さでした。空の広さや夕日、流れ星、草原。日本では感じるることのできない自然の大きさに驚かされました。また、日本のせわしない環境の中にいて気付かなかった「自分らしさ」について考えさせられました。日本に居る時の自分は何もかもが中途半端で、周りの流れについて行けていない自分に嫌悪感があり、ぼんやりとした毎日を過ごしていましたが、モンゴルのゆっくりと流れる時間の中で過ごし、雄大な自然や人々とふれあっているととても素直に自由な生き方がしたいなと思いました。モンゴル人メンバーは一人一人個性があり、自分の考えをしっかりと持っていて、それは自分にはないものでとても尊敬できます。モンゴル人メンバーだけでなく普段会うことのできない他支部の日本人メンバーとの会話でも様々な考え方があり刺激になりました。

ウランバートルは、様々な言語の看板やカラフルな住宅街が並び、草原との大きな違いにわくわくしましたが、クラクションが鳴り響く道路や渋滞している車の間を平然と通る人

を見ていると少し草原での生活が恋しくなったこともありましたが、しかし、ウランバートルでは、モンゴルの歴史や宗教を学ぶことができとても良い経験ができました。

今回、モンゴルに行って多くの事を見て知ることができ素晴らしい経験ができました。これから、モンゴルで感じたこと活かし毎日を大切に過ごしていきたいです。本当にモンゴル Ex 楽しかったです。モンゴル Ex に関わっているすべての人に感謝しています。ありがとうございました。

フリーエッセイ

小林 李奈

このモンゴル Ex で過ごした 2 週間は本当に長かったです。特に、草原で生活した日々は忘れられません。日本で毎日のように耳にする車の騒音も街の騒音もまったく聞こえないモンゴルの草原。自然の音だけの世界の中でさまざまなことを経験し、文化を理解しました。モンゴルに着いてすぐに驚いたことは、ウランバートル市内の建物の様子です。ロシアを思わせるような建物や建築中の建物がたくさんあり、もっとアジアのような国を予想していた私を良い意味で裏切りました。ほかにも、モンゴル人のフランクな性格にも驚かされたり。草原での食事には、どの料理にもお肉が使われていました。ほかによく使われていた食材はジャガイモや人参、春雨のような太い半透明の長いものなどです。毎日がお肉なので少しおなかที่疲れたけれど、今までに食べたことがない食事を経験できてよかったです。現地に住んでいる小さい子どもたちとも仲良くなりました。言葉の壁があっても、子どもは子ども。抱っこしたり走り回ったりと、からだをつかって一緒に遊びました。そのほかにもピクニックに行ってお花畑で和んだり、馬や羊などの動物を触ったり。日本ではめったにできないことがモンゴルでは当たり前のようにできてしまいます。それがモンゴル Ex の魅力です。機会があればまた行きたいと思えるような国になりました。

「2 度目」

喜納 しずか

3 年前、まだ 1 回生のときのことである。私は初めて ISA のプログラムに参加した。それがモンゴル EX だった。そのときも「モンゴルに行く」と人に言う度に「なんで？なんでモンゴル！？」と言われまくったが、今回「もっかいモンゴル行く」と言うと「また！？」と前回以上に驚かれた。なぜ 2 度目の参加を決めたのか。実ははっきりとした答えはない。人に聞かれば「もう一度あの星空が見たい」だの「自然に触れに行きたい」だの当たり障りのないことを答えているが、正直なところ自分でもよく分かっていない。ただ「行きたい」と思っただけである。

2008 年のモンゴル EX で、今回は 2 度目だという先輩がいた。その先輩は、「前回と比べ

ないこと」を心掛けようと思う、と言っていた。そのときはなんとなくしか分らなかったが、実際に自分が2度目に参加してみて、その言葉の意味がよく分かった。

今回は、前回参加したモンゴル EX とは違っていた。違う点はいくつかあるが、一番大きい違いは、草原ではツーリストキャンプに宿泊ということで、水道もシャワーも水洗トイレもあり、電気まで通っていたということである。以前まで、これらは全部なかった。それは生活するうえで快適であり、とても便利だったが、なんだか少しさみしかった。「想像していたのと違う、だって前のときは…」と考えてしまった。前回と比べてしまうのである。そして、2度目の日本人参加者は私だけだったためそれを共有できる人があまりいなかったことも実は少しさみしかった。しかし、それぞれにいい点、残念に感じた点があった。それらを両方経験できて、よかったと思う。同じモンゴルでも、少し環境が違うだけで感じ方、見え方が違った。それでも、モンゴルが心地いい場所であったことには変わりはない。私はまた、自分では理由も分からないまま「モンゴルに行きたい」と思うのかもしれない。

日記

2011.8.10～2011.8.20



◇◆8月10日（1日目）◆◇

<しま>

プログラムで一番慌ただしかった日ではないでしょうか。前日に北京が豪雨だった影響で、9日の夜には着く予定だった飛行機が10日午前1時に北京に到着。その時点で疲労感がハンパ無かったのですが、そこから更に交通手段に手間取り、ホテルに着いたのは3時すぎ。5時にはホテルを出ないとダメだったので1時間ほどしか仮眠できませんでした。で、空港でチェックインをすると、フライトが遅れていて結局11時すぎに離陸することに。その間北京の空港にあるカフェで寝たり甘ったるいモカを飲んだり、寝たりしました。あと、寝たりもしました。要は寝てました、カフェで。全然怒られなかったです、中国って良い国だなーと思いました。いや、特にそんなこと思ってませんけど。

そんなこんなでモンゴルに着いて、途中めっちゃウンコ臭い道（いや、ホンマ意味分からんぐらいウンコの臭いしてましたw 5分ぐらいずっとウンコの臭いしてたw）を通ったりしつつゲルのある場所へと。草原。何もないです。草原。草原とゲルと空。あとウンコ。それと虫。って所。草原。

ご飯食べたりサッカーしたり、子供と戯れたり。あ、子供たちはモンゴル語でガンガン喋ってきます。それに僕らは日本語で応戦。なかなか楽しかったです。あとよう分からんけど草原で出会った子たちはみんな蹴ってきましたw あと殴ってきますw でもメッチャ可愛いので全然OKです。

そしてキャンプファイヤー。でもビールとウォッカのせいであんまり覚えてないです。ウォッカ飲まれた時は頭フラフラで、なんかいらんことしたり言ったりしてたかもしれません。でも、そんなこと知りません。ま、そんな感じの濃い濃い初日。

<のぶ>

ホテルのロビーに6時集合だったため、5時起床でした。ちなみに、昨日北京が大雨だったので、空港の到着ロビーについたのが本来の時間より5時間30分遅れた深夜の1時30分でした。EX序盤から本当にきつかったです笑 更に昨日のダイヤの乱れの影響を受けたようで、ウランバートル行きの飛行機の出発時間も3時間遅れでした。なんてついていないのだろうと思いつつ、無事北京を出発し、ウランバートルに到着しました。 空港に到着するとモンゴル人メンバーとまるちゃんが迎えに来てくれていました。そして、バスに乗って1時間くらいすると、舗装されていない道を通り草原に着きました。そこは本当に草原しかなくて、ここで一週間生活をする考えると楽しくて仕方ありませんでした。しかし、また不運が起こるのです笑 ゲルの土台部分から地面に降りたときに捻挫してしまったのですww もはやついていないというよりか呪われてるのかと思いました笑。まあそんなこともありつつ、草原でボール遊びなどしながら、草原を満喫しました。 夜にはEXが始まるということで、キャンプファイヤーをしました。そこでウォッカを初めてストレートで飲んで、あんまり飲みたくないなと最初は思いました。しかしこのEXでウォッカにお世話になることがしばしばあるとはこの時想像もしてませんでしたw こんな感じで初日が終わりました。

◇◆8月11日(2日目)◆◇

<もーりす>

朝から国立公園へ行った。4時間以上のバス移動は結構タフだった。最初は、宿泊していた地域と何ら変わらない草原の風景であったが、次第に山々が連なった壮大な景色が広がってきた。亀石？という有名な岩が見える丘にて休憩。個人的に男子全員でツレションをしたのが強烈な思い出として残っている。皆の解放感に満ちた顔は忘れられない。昼食を済ませて、次は川へ行った。かなり冷たい水温で、最初は皆足をつけたり、川岸で話をしたりしていた。そんな時に水鉄砲が登場。ジャギーさんが悪そうな顔をして皆にかけはじめた。そんな中何人かがきっかけとなり、水のかけあいが始まり、びしょ濡れの人も結構いた。帰りも同じくバス移動。モンゴルは緯度が高いので、夜8時ぐらいいまで日が落ちず、それぞれが話をしたり、寝たり、遊んだりして過ごした。

<ぼんず>

8時半、起床&朝ご飯。正確にはてっぺーの「ご飯ですよ～」で起きた(￣▽￣)朝ご飯はパンとミルクがゆ。パンおいしかったーけどミルクがゆ・・・甘い？

10時に国立公園へ出発！2時間で着くって言うたのに4時間ぐらいかかった。しかも超ちんさむ(☆彡☆)・・・が永遠と続いた。国立公園到着！公園って言うか更なる大自然ですね。そこでお弁当ターーイム！やっぱり作ってもらうのっていいですね。愛情を感じました(*´▽`*)

その後、川に行きました！始めは、水のかけあい程度だったのに、水鉄砲出てきーの、ペットボトル出てきーのでガチの戦いが始まりました！！

まるさん&ぼんず VS ジャギーさん&ツォゴー

あまりのジャギーさんの強さにツォゴーと同盟組んでたころ、一方では1ずつ川に投げられてました。気がつけば先程まで一緒に戦っていた仲間のまるさんまで餌食になっていました(笑)そしてこの悲劇が自分にふりかかるとは知らずに・・・。

1時間ぐらしか川で遊んでいなかったのに、帰るころには半分ぐらいの人が全身ずぶ濡れになっていました(≧▽≦)笑

この川の件で日本人メンバーともモンゴル人メンバーとも一気に仲が深まったと思います。明日からはもっと楽しいExになるでしょう☆

◇◆8月12日(3日目)◆◇

<さき>

8時すぎに起きて朝食。午前中は自由で、みなさん絵かいてたので私もそこにまぎりました。ゆきなゲルではゆきな美容室が開店中でしたー。お昼食べてからウランバートルへ出発!!チンギス公園?でいっぱい写真とって博物館。恐竜すごかったですねー。そしていよいよモンゴルショー^^ジャギーさんたちVIP席うらやましかった>くてか花形の男性ダンサーの人がジャギーさんに見えて仕方なくて、しかもなんかちょっといきってる感があって少し腹立たしかったです。軟体少女はすごかったけど見ている自分の身体が痛くなってきました。オケもよかったし何よりホーミーを生で聞けたことに感動!!!

8時過ぎにゲルに戻ってご飯を食べてから、クリリンが暖炉をしてくれました。でも暑くて暑くて我慢できなくてゆきなゲルに避難。のぶくんとちゃっぴーさんもいました。私ののぶくんへの印象が変わっていったのはこの夜が境です。あさみんさんお疲れ様でした…。楽しくて笑っぱなしでした^^1時ごろに自分のゲルに戻って、明日は流れ星が見れたらいいなと思いながら寝ましたとさ!!!

<まる>

今日は8時にGet Up。本日の朝ご飯はポテトサラダ的な物と肉マン…の皮だけバージョンのもの。…うん、うまししし☆今日のスケジュールは12時に昼ご飯、1時にウランバートルに出発だそう。今は9時半位。まだ2時間半もある。…暇だ。私のバイト先用語を使うとマーヒーだ。ってことで山に登ろう~(・▽・){ヤッホー With マナティさんミッキーさんぼんず氏☆ んーモンゴルの草はいと痛しである。そしてお決まりのthe撮影会、(*^▽^)/今日のテーマはゲルと一緒にon the rock位であろう。…で撮影後雨が降って来たので下山。そして適当に時間を潰しいのいつの間にか昼ご飯~♥メニューはみそ汁、パスタ、肉じゃが、キャベツの何とか、的なモノたちだった。おいしいがパスタを口に入れ時のパサパサ具合は半端ないよ(・▽・)あは お昼を食べた後はウランバートルに出発~バスで移動して博物館着いて恐竜の卵に感動してチンギスハーンとツーショット撮ってショーを見に行きました。横にいたボン酢さんは爆睡していました。当の私は一睡もせず全部見てました。後々聞いたらマナティさんは最後の演奏以外寝てたそうです。ほんまマナティさんww帰りのバスで大富豪をしましたwithぼんず&はっしゅん。はっしゅんは糞でした。その後、ゲルに戻って晩ごはん食べたり、モンゴルの方々が寒いからといって火をおこしてくれたりしました。本当ありがとうございます。暖かったけど最終的に燃える位熱かった…。てか燃えました。そして腹痛の痛みに悶えながら1日を終えるマララン(私のモンゴルネーム)なのでした(^ω^)うふ

<やす>

今日はあいにくの曇り空です。午前中はとくに予定がないので、朝ご飯のあとは暇です。ゲルの外に出てみると、そんちょが絵を描いていたので真似をして絵描きをします。青い空とみどりの山々のコントラストが美しい!絵をかいたあとはみさこちゃんやもーりすたちと一緒に誘われ初登山。天気が良かったらと思ったけど、それでも気持ちいいですね♪モンゴルの景色と空気に癒されますっ昼からは、バスに揺られウランバートルへ。博物館を各自まわりながら、モンゴルの豊かな動植物を知りました。中心地の広場、チンギスハーンの銅像のまえて記念撮影をします。みんな水以外の飲み物に飢えているようで、売店を探

したりしていましたwそののち、劇場に移動しダンスを観覧しました。まさにモンゴル！って感じの演奏と踊り！！自分の表現力の乏しさを恨めしく思う。。今日は、色々と移動して楽しかったですね。

◇◆8月13日(4日目)◆◇

<そら>

Ex4 日目☆★

今日の朝ご飯は、ミルク粥とイチゴジャムが乗ったパン♪食べたあと、草原でサッカー観戦☆からの...参戦☆! サッカーとか小学校の体育以来!! 久々で楽しかったけど、試合後クリリンが「空練習!」言うて自らキックのコーチ?してくれた(笑) そんな下手やったか...(笑)

そのあとは水鉄砲と山登り♪頂上からの景色は絶景!! ほんま感動した!! 下山したあとは昼食。そして遊牧民の生活を見学♪見るものすべてが新鮮で楽しかった♪ザヤが隣でいっぱい解説してくれたおかげで、いろんなことを知ることが出来た♪ありがと(*^_^*)♪



そのあとはみんなで凧作り♪凧を飛ばすためにてっぺいは山頂まで登山! てっぺい元気(*_*)! 一緒に登ったあたしと翠さん死にそうです(>_<) 海老蔵も来て、山頂ではとりちゃんも手伝ってくれて、てっぺいの凧は無事飛行!! よかったよかった! 諦めないって大事(^_^)☆

今日は晴れたし星見える! 天体観測や!!...のはずが、いつのまにか遊びに変更(笑) まさかのチャッピーさん道づれで罰ゲーム 2 連チャン(*_*)! 巻き込んですみません(>_<); でも楽しかった~♪モンゴルにもハンカチ落とし(モドキ)があるとかビックリ!

そのあとは曇ってきたから天体観測やめて、「おやすみなさい~」の歌を聴きながら就寝(笑) でもそのあと晴れてきて、なんと流れ星が見えたらしい! 見たかったな**

<チャッピー>

午前中はまったり起床。朝食食べたら今日は登山。昨日までの曇天がすっかり晴れて、山頂からの景色は絶景絶景。まさに 360° パノラマビュー!

で、午後から遊牧民の暮らしぶりを見学させてもらう。ゲルの中見せてもらったり、馬の馴らしや年に 4 回する移動の時の様子を見せてもらった。何もかも初めて見るものばかりで内心若干興奮気味でしたね。馬の馴らしで、地面に置いた物を乗馬して走りながら取るとか、、凄すぎるでしょう!!!!でも、一番テンション上がった、というか衝撃やったのは、さっきまで民族衣装を着て馬に乗ってたおじさんが普通のシャツを着てバイクに乗っての登場した時ですな。 いや、バイク乗るんかい、と。実際は半分定住半分遊牧らしくて、観光用にやっている面もあるそうで。…何だか思った以上にモンゴルって近代化してるな、と感じた瞬間でした。

その後は恒例の、まったりタ〜イム♪

延々シャボン玉を吹き続け、日が暮れてからは何人かで流れ星ウォッチング。最初は「田舎な我が家も負けてないやん」と思ってましたが、いや、半端なかった。星空美しすぎる!!そして流れる流れ星!!! Shooting Star!!!! モンゴルの星空はきれい過ぎです。本当にモンゴル来てよかった。そう最初に感じた瞬間でした。

あ、何か流れ星っていうか最早火の玉みたいな(火球で言うらしいですね)も見た!!

まあ、そんな自由な一日でした☆

◇◆8月14日(5日目)◆◇

<まいまい>

今日はいつもより早く起きて、放牧体験→森でいちご狩り という予定!遊牧民たちのヒツジやラクダやヤギを遠い方のゲルまで連れて行きました。私はラクダチームやったけどラクダ言うこときかなさすぎ。

笑 みさこが一番ラクダを追うのが上手でしたw

放牧体験終わってから森まで向かったけれど、草原が果てしなすぎる。途中本気で疲れて行き倒れるかと思いました。頑張っただけ森まで行ったらお花畑が広がっていて、ラベンダーとかマーガレットとか、釣鐘草っぽいやつとかが沢山咲いていました!花束作った。あとお花の冠つけて写真とる大会もした。笑 野いちごは粒みたいになっちゃいやつやったけど 甘くておいしかったです!帰ってからは疲れすぎて爆睡。

馬に乗ろうと思ったけど夜になっちゃって断念。明日は馬に乗るぞ〜〜

夜は流れ星を見ることができました!モンゴルに来て初かも。綺麗すぎて忘れられません。

<まゆみ>

この日の朝ごはんもいつもの牛肉?の入った白いスープとバターを塗ったパンでした!みんなの間でいつブームになったかは分からないけど、このあたりから「コショウをかけたならなんでもよりおいしく食べられる」という発見が私の中であつたらしく、なんでもコショウを何か分からなくなるほどかけるようになった。(笑)この日の朝ごはんは 7 時 45 分からで、食べた後すぐにハイキングに出発!ジャギーさん曰く、「あっちの森まで行って、お昼までには帰ってくる」という予定のハイキングでした。羊、山羊、牛、ラクダ?の家畜を移動させながら森へ向かった。この日はものすごく天気が良くて暖かった♪前日に極寒の草原で星を眺めていたため、一日中サイズの合わない巨大マスク+冷えピタという誰か分からない状態で過ごしたにもかかわらず、日焼けがやばくて顔が真っ赤&鼻の皮がむける事態に><日差しがすごく強かった!森まで、といっても目的地が全く見えなかった。360° 見渡す限り Windows の壁紙!本当にきれいだった。1~2 時間歩いてお昼にようやく森に到着。森ではみんなでいちご探し♪最初はなかなか見つけれなかったけど葉っぱの裏にあることを知りそこから急に大量に見つかった。空ちゃんが花でかんむりを作りみんなで写真撮影大会!めっちゃくちゃ大人気だった。その後ゲルまで戻り、結局お昼までに帰る予定が 14 時すぎに。適当すぎる。ごはんもおやつも持っていかなかったのでお腹が空き過ぎてやばかったけど、モンゴルのゆったり〜り流れる時間を体験できたので本当によかった ^^

<みづき>

目覚まし無しで起きる生活 4 日目。朝ごはんの時にアーバに貰ったレーズンクッキー(アーバの奥様が作ってくれたそう)を食べてテンションマックスの状態から一日が始まる。うまい。うますぎる。なんといううまさ。モンゴルで一番おいしいクッキーだ。作り方を教えて欲しい。スタバで秋の新作として売り出せる。ああスタバ行きたい。スタバには 1,2 回しか行ったことはないのだが。

「今日の予定はあそこに見える森に行って苺を食べます。」と指を指した方角には「山」の字に広がる森が。草原においては比較物が無いため距離感がつかめない。まさかあんなに遠いとはこの時点で誰も知る由もなかった。

ゲルから見渡す限りは全て「草原」だったはずなのだが、歩き進めると実に色々な表情を持っている。とかっこよく言ってみたが、つまりは糞だらけの道、ハエだらけの道、触るとかゆくなる草の生えている道、謎の花粉で黒のスニーカーが迷彩柄にカスタムチェンジされる道・・・もちろんどの道にもバッタは標準装備だ。しかし歩くこと 2 時間半。もはやどんな道を歩こうとノーリアクションでスルーできる程疲れる。やっと着いた森。みんなへたり込む。帰れるかな。もう歩けん。また 2 時間半か・・・。野苺を食べて少し体力回復。さ、帰ったら昼ごはんだよ・・・みんなほぼ完食し、昼寝。疲れたら、寝る。それがモンゴル Ex。晩御飯はパスタ。トマトソースをかけてみた。うまい。うますぎる。カプリチオーザモンゴル店だ。ああカプリチオーザ行きたい。カプリチオーザには一度も行ったことはないのだが。

◇◆8月15日(6日目)◆◇

<みっきー>

起きたらもう 8 時(*_*)幸い昨日のお酒はもう残ってないみたいです。いろいろやらかした昨夜だったけど楽しかったなー！

8 時半くらいから朝ご飯。バターパンと、この旅初のねぎ入り？オムレツ。あっという間に完食して戻ると、二日酔いだらけの我々のゲルに、「二日酔いにはこれ」って、てっぺいが何故か辛ラーメンをくれた！本当に効くのかは謎だけど久々のラーメンにテンションあがってしずか・源ちゃんとキャッキヤ言いながらこれも完食。午前は遊牧民のゲルで乳製品作りを見学。乳製品は本当いろんな種類のものがあって興味深かった！チーズが 20 分でできるなんて！ヨーグルト乾燥させた堅いやつ、生クリームらしきもの、できたてチーズ、チーズつくるときに分離した黄色い液、モンゴル酒・・・うーん、口に合わなさげなものが多かったです(● 〃 ●;)

戻ったらお昼タイム＊いつものスープとなんとミートソーススパ！その後は乗馬と平行しつつみんな思い思いの時間を過ごす。明日の発表の準備をする人、シャボン玉する人、話す人、寝る人、日記書く人、写真撮る人などなど・・・私も乗馬させてもらったり発表で使うやつ作ったり、卒論したり、本読んだり、喋ったり(*v.v)。何にもない場所の何にもない時間って、大切な一とつくづく思う。日本だったら絶対こんな贅沢な時間の使い方ができない。そんな時間もあっという間に過ぎて、もう晩ご飯。うどんともパスタともとれない何とも言えない一品。早めに切り上げて空を見ると、思わず見とれてしまうくらいの夕日☆これはもっと近くで見なければ！ってことでみさこと西の地平線を目指してひたすら山を登る。見晴らしの良いところまで来ると、言葉を失うくらいのきれいなオレンジ色が一面に広がっていた(● 〃 ●)夕日は日本でも見れるのに、どうしてこんなに感動するんだろうなー><みさこと話しつつ、日が傾くまで一面の橙を楽しみました。

帰るともう星がキレイで、みどり、空と語りながら流れ星を見た。今までにない程星がたくさんで、この瞬間をずっと待ってた！って感じでした。本当に贅沢な時間の使い方ができている今日です。しばらくするとえびちゃんがオレンジジュースを持ってきて、もしや・・・と思ってたらてっぺいがふところからま

たドヤ顔でウォッカを取り出す(° 皿 °;)今夜は完全にノーアルコールデーだと思ってたから不意打ちでした。けど今日は仮眠をとってから3時に起きて星と朝日を見る！って心に決めてたから3杯くらい楽しく頂いたところで退散して就寝。明日流れ星たくさん見れるかなあ☆

<みどり>

昨夜はしずかさんの Ex2 回目を祝して鉄平主催で飲み会を開催♪かなり盛り上がりました！めっちゃ楽しかった～最後の方記憶ないけど！お世話になった方々ありがとうございました m(_ _)m 笑。みんな色々あったみたいで、あえて書きませんが。みさこさんの正の字カウントによると1人13,4杯は飲んだらしい。10人でウォッカ5,6瓶空けたらね。みんなあーなりますよね。笑。モンゴル人はお酒強いです。朝ごはん後は、自由行動♪寝たり絵を描いたりシャボン玉してる人も。私は鉄平おしんまんだえびちゃんとりちゃんまゆみそらさきまなていさんちやっぴーさん村長さんで大縄!綱引き!リンボー!バレー!その後は全員で遊牧民族の人たちのゲルに家庭訪問してチーズやお酒を造っていただきました♪乳製品は日本のとは全く違ってちょっと、かなり酸味が強いです。ここで私は胃でウォッカとチーズがケンカし始めたので、しずかさんみさこさんと一足お先に自分たちのゲルへ(^0^)しずかさんと遅めの朝食も食べてのんびり♪お昼からは昨日に引き続き順番に乗馬!走ったりもして本当最高でした*そして夜は…待ちに待った満天の星空!星を見ながらみっきーさんと語り。贅沢な一時でした。みっきーさんありがとうございました(*^^*)それからみんなで文化紹介の準備したり月明かりの草原で dancing したり!with ウォッカ2瓶w鉄平マンドゥキナのダンスは素晴らしいです。鉄平とみさこさんのペアダンスも!解散の後ぼんずとえびちゃんと星を見に山登り!パッとサッとのが、3人とも山で爆睡。探しに来てくれた鉄平の『ツォゴーーーーー!』の声で起きました。(はっしやんの声マネかと思ったw)こんな感じの August,15th. 草原を満喫しました。楽しかったです\(^0^)/

◇◆8月16日(7日目)◆◇

<ゆきな>

今日はいよいよ文化紹介の日!文化紹介のテーマは「縁日」。朝食を済ませ、みんな浴衣や甚平に着替えお祭りらしい雰囲気!前日に作っておいたヨーヨーなどを準備して文化紹介スタート!スーパーボールすくいやヨーヨー釣り、射的みんなとても楽しそうに見え、みんなが笑いながら楽しそうにやっているのを見て係りとしてほっとした。途中、雨が降ったりしたけど無事に終了。同じ係りのみどり・りないいろいろ本当にありがとう!

昼食後は、グループ別で劇と歌の発表。どのグループもすごくしっかりしたもので、面白かった。モンゴルメンバー・日本メンバーが一緒になって一つのものを作ることができて良い思い出ができたと思う。

夜は、Sweet Party!!!久々に日本のお菓子を食べて手が止まらなかった。モンゴルメンバーも梅酒が美味しいと言ってきて嬉しかった。みんなでおしゃべりしたりダンスをしたりとても盛り上がり草原で過ごす最後の日、とても良い日になったと思う。

明日からウランバートルでホームステイ!すごく楽しみ!

<あさみん>

この日はモンゴルにきて最大のイベントの文化紹介&スイパの日でした！午後から日本人メンバーは浴衣や甚平に着替えて文化紹介のテーマである「縁日」をわいわいしました。縁日ではヨーヨーすくいとスーパーボールすくいがモンゴル人メンバーに大人気で日本人メンバーもみんな楽しんでいました。なぜかかぶだけ本気の祭の衣装を着て面白かったです。縁日中雨に見舞われましたが日本の文化をモンゴル人メンバーに理解してもらい楽しんでもらえるとても楽しい時間になりました。

この日はいつもにも増して夕焼けがとても綺麗に見え、皆でひとつのゲルの前に集まって音楽を聴きながら踊ったり歌ったり喋ったりゲル最終日にとても良い思い出が出来ました。晩ご飯を食べた後は待ちに待ったスイーツパーティーがいつもの食堂でひらかれました！日本のおかしをひつつさしぶりに食べてめーちゃめっちゃ日本が恋しくなりました。特に梅酒とカレーせんべいは絶品でした！！スイパの後はウォッカのショット飲み会が始まったり、ダンスを踊ったり、各自のゲルで話したりとゲル最終日の長い長い夜をそれぞれが楽しみました★

◇◆8月17日(8日目)◆◇

<はっちゃん>

夜中、マンダとキンキンに冷えたビールを飲む。モンゴルではビールとウォッカをちゃんぽんしすぎて具合がかなり悪い。そのままマンダと就寝。モーリスさんが朝の9時に帰った。先に北京へ旅立たれた。正直とてもつらい。んでから、12時くらいまでごろごろ。しかし、途中で腹痛に襲われる。トイレに駆け込む。一安心だ。お尻をふきふき。ん？！見事に血が。痔になったのかな？ボラギノールはモンゴルの地には無いであろう。

昼ご飯はオシンがラーメンを作ってくれた。うーまーいー。オシンはよほど疲れていたのだろう。御飯も食わずに寝てしまった。オシンは寝顔も可愛い。俺も御飯を食べてから、昼寝をした。っと、まさかのモンゴルの地で金縛りにw モンゴルでもあるんや。起きてから、晩御飯をみんなで作った。オムライス。ああ。ノスタルジア。んでから、遊園地に行きました。気軽な遊園地やって驚きました。入園料安い。アトラクションで、とてもちゃっちゃいロケットに乗って回転するのんに乗った。回転の回転でまじ死ぬかおもたw いや一回乗ったらみんなわかるw 頭で身体を支える感じになるから。マンダのヘルメットが目の前に飛んできたし。

遊園地を後にし、僕たちはクラブへ。またビール&ウォッカ。モンゴル人どんだけやねんw ステージでマンダとオシンとダンシング。みんなダンスうまいな。とても楽しそうだった。そのままタクシーで帰宅。またマンダと就寝w

<まなてい>

朝ごはんを食べて、草原を出発ー！！ゲル一緒だったぼんずとさきちゃんとゲルの前で記念撮影★何日間もみんなと一緒にだったから、バスでのお別れは少し寂しく感じた…

そしてマンダの家に到着ー！！メンバーは、バヤルマ、丸ちゃん、モーリス、はっちゃん。気付けば全員開学ー！！部屋は割りと広くて、同じモンゴルなのにゲルでの生活との違いに驚いた。お昼は、まんだ

手作りのチャーハンのような料理を食べました。やっぱ米はおいしいーw w

家でまったりした後は、ザイサンという戦勝記念碑を見に行きました。塔のてっぺんには、モンゴルとロシアの連合軍が日本の軍隊をやぶった時の絵が描かれていました。ちょっと複雑な気持ち…でも、ウランバートルを一望できて、夜だったので超景色は綺麗でした♪他のメンバーとも再会できて超テンションあがりましたー！！

その後は、えびぞうとぼんずとさきちゃんと一緒に行動——！ボーリング行くはずやったのに、どうやら節電らしく店閉まってた…この適当な感じ日本じゃ考えられんからビックリ！！しゃーなしでバーに行ったらそれぞれビール一本飲んで、マンダの家でまた飲み会——！！ビールは、スーパーで買ったんですけど、時間が遅かったから？か最初売ってくれなかった…でも、えびぞうが交渉してなんか裏口みたいな所から出てきてビールを持ってきた時は、かなりすげーって思った。結局、3時ぐらいいまで飲んでお開きー！でも、私は気付いたらソファで寝てました…やっぱりビールはあんまり好きになれんな…w w

◆◆8月18日（9日目）◆◆

<村長>

10日目

モンゴルでの生活も終盤に……。

この日は前日の私がホームステイしていたオルナの家での宅飲みによる二日酔いから始まりました(笑)

部屋にはウォッカの空瓶3本が転がっていました……。まさにあれは戦地跡です。

みんな二日酔いで若干気分が悪いながら、朝ごはん！！朝ごはんはおかゆとヨーグルトの間のようなもので、二日酔いの時食べるものらしいです。

確かに若干気持ち悪さがましに！！・・・なった気もする(笑)

そこから、一緒に飲んでいたベジータの車でデパートへ。

デパートではザヤ、りなちゃん、みどりちゃん、まゆみちゃんと偶然会いました♪

カシミアを購入！！日本の数分の1の値段でゲットできて、超ハッピーです♪

そこから、再びベジータの車でさよならパーティー会場に移動。

19日に帰るメンバーとはもうお別れ(ToT)/~~~

みんな集まって写真の撮り合い大会！！ついでに今まで撮った写真を見て、思い出に浸る……。

カラオケしたり、踊ったり、みさこさんのお誕生日をサプライズでお祝いしたり、あっという間に時間が流れて行きました。ケーキおいしかったあ〜。みさこさん Happy Birthday!!

そんなこんなでパーティーもお開きに、19日帰国メンバーと別れを惜しむ……。

色んな思い出がよみがえって、なんか寂しくなったけど、本当に楽しかった〜♪ありがとう！！！！

<みさこ>

ホームステイ2日目。朝はおうちでのんびりしてアオルカとモモがよく行く Café レストランでランチをした。モンゴルに来て9日目。最近日本食を禁句にするほど我が国の食文化が恋しい私たち。ジャンクフードをこよなく愛するしずかととげんちゃんは、ハンバーガーやピザといった久々のジャンキーなメニュー

ーに大喜び！二人で大きなピザを注文していたのに、あまりに大きなモンゴルサイズにほんの数枚でギブアップ。サラダをこよなく愛するオーガニック派なみづきと私も参戦してようやく一枚平らげることになった！

お腹がパンパンになったところで、午後からは皆でバスケット！学校の体育館を借りて皆で 5on5 をした。元バスケ部としてはりきってはいいたものの、体力の無さとモンゴルの乾燥した気候のおかげで汗はダラダラ、のどはカラカラ…めつつちゃしんどい！でもやっぱ楽しかった！スポーツ万歳＼(^o^)/ 後で聞くと、モンゴルの学校は、午前中は小学校、午後は中学校として使われているそう。施設的には有効活用だけど置き勉できない生徒たちにはちょっとかわいそうかな。

夜は Farewell Party! 全員揃えるのは今日が最後なので歌ったり踊ったり写真を撮ったり…それぞれが思い思いに楽しんでいた。チェリーやモンパチといったモンゴルらしい曲を聞いていて、EX 参加してよかったなってしみじみ思った。私の早めのバースデーもお祝いしていただいて…みなさん本当にありがとうございました！より良い人間になれるよう頑張りますので今後とも仲良くしてください☆

◇◆8月19日（10日目）◆◇

<りな>

今日は 9:30 くらいに起きたのに、ホームステイ先のザヤの家でのんびりしていたらいつの間にか 13:00 になっていました。時間経つの早い～～！

すぐに出かける支度をして、モンゴルで有名なノミンデパートまでお買い物♪モンゴルで今流行っている、Bold っていう R&B シンガーの CD を買ってみました。どんな歌なのかは、家に帰ってからの楽しみ。他に買ったものは、チンギスです！これはモンゴルのウォッカ。このモンゴル Ex での一番の思い出の品という人もなかには多いはず（笑）

買い物の後は映画を観に行きました。なんと…ハリーポッター！！まさかモンゴルで最終章のハリーポッターを観るなんて思ってなかった。しかも私にとって初の 3D でした。音声は英語で字幕はモンゴル語。さすがに集中力切れて途中寝たけど（笑）館内の冷房がききすぎて寒かった。

映画の後はザヤの家に帰ってボーズという小さい肉まんの形をしたモンゴル料理を食べて、その後はアリユナというモンゴル人の子の家におじゃまして YouTube したり、写真を撮ったり。みどりとまゆみと私は 20 日早朝の北京行きの便だったから、それまでモンゴル人のトゥーギーの車で朝 3 時くらいにドライブ。眠かったー！家に帰ってザヤが作ってくれた朝ご飯食べて、てっぺいの車で空港まで向かいました。お別れが近いというのに車の中で爆睡でした（笑）お別れほんとに寂しかった！いつかまた来るよーモンゴル！

<しずか>

8時半くらいに目が覚めるも、9時ごろまでベッドでごろごろ。

朝ごはん食べてみさこ・げんちゃんと喋りつつ、リビングでのんびり過ごす。アルカがお洗濯してくれる！ご近所さんのみづき・ボギーさんたちが買い物から帰ってくるのを UNO して待ち、一緒に遊園地へー！！バイキングにみんなで乗って、おなかがひよおおおってなる w 横でげんちゃんの超高い声 ww 一人乗りジェットコースターでみんな最後ガタンッってなったり、空中ブランコではスタッフがおしゃべ

りに夢中になって職務放棄してたため、40周くらいまわったりした。めっちゃ目まわって若干気持ち悪くなった。最後に乗った観覧車はサウナみたいやった。暑かったー。

ボギーさんちでごはんごちそうになって、アルカの家に戻るところでなんかテンション高い鉄平たちが遊びに来る。そして全員腕に落書きされてた。

えびちゃん、みっき、まいまい、みづき、げんちゃん、みさこ、てっぺい、アルカ、ボギーさんとしらふの王様ゲーム…。いやー、つらかった。みんなで大ヤケドとトラウマを負い、どんどん落ち込んでゆく w みどり・りな・まゆみ・ザヤも合流し、今度はトランプを手を使わずに口で回していくゲームが始まる。これでも何人かがケガする w まいまいがげんちゃんを介抱したり、鉄平は寝始めたり、AKB やあやまん JAPAN の PV が流されたり、ケガ人同士慰め合ったりとよく分からない時間を過ごす。お開きしてから少しだけ映画『HACHI』見たけど、切ない気持ちになりそうやったから途中でやめた。シャワーして 0 時半ごろ就寝。おやすみなさい。

◇◆8月20日(11日目)◆◇

<げん>

朝 9 時に目覚めた、相変わらずいい天気である。昨日ふらふらに酔っぱらってしまったため朝は美沙子が起こしてくれた。2 日酔いはしていなかったのもラッキーだが、昨日のことは覚えていた。都合の悪い体である。

本日の朝ご飯、パン・ソーセージ・きゅうり・コーヒー、もはやパターンである。取りあえず食後にシャワー浴びてみる。ついにすっきり目覚めたようだ。今日は前々から言っていた寺院(後でアルカに教えてもらうのだがガンダン寺)へ行くことになっている。タクシーに乗ってガンダン寺につくとそこには無数のハトの群れが……。しずかはこれ以上ないぐらいにびびっている。逃げ込むように本殿に入るとそこには巨大な(28m)金色の仏像が居た。でけえ。それを囲むように 1 万体の阿弥陀如来が居る。多いな。さらにガンダン寺を見て回ると、寺院に付属の学校があり覗けるようになっていたので行ってみた。なにやら生徒は 15 年間通ってやっと卒業できるらしい。

そんなこんなで昼過ぎにアルカの家に戻った。美沙子とアルカと近くのお店まで夕食の材料を買い出しに行った。で、ベーコン・ケチャップ・水・ポテチ・ハリボーを買った。家に戻った後はひたすら昼ご飯のケバブを待った、待ちに待った、雨が降ってから止むまで待った。そんなこんなで 4 時過ぎに昼ご飯。美沙子は昼寝しに行ったので、しずかと 2 人で喋った。

6 時過ぎに美沙子が起きてきてボギーさんちに夕飯を作りに行くことになったので、4 人で向かった。料理を開始したが、美沙子の活躍でほとんどオムライスは完成してしまった。オムライスの卵無い版はモンゴル料理にもあるらしいということがわかった。9 時過ぎにはアルカの家に帰って明日の出発の支度をして寝ました。

<とり>

ステイ 4 日目!!ゲルから離れて 3 日連続で風呂に入ってるお陰でスーパーサイア人化(詳しくは写真参照されたし)もだいぶ解けてきた～。

ステイ先のオノの家はお母さんが日本語学部の学部長でめっちゃ日本語堪能かつテレビで NHK うつるから日本にいるみたいにほんとに何不自由なく過ごせてるし、いつもパンとかお菓子とか食べられるものを置いておいてくれるのでつつい体重のことを忘れて食べてばかりの生活になってしまうほど寛いじゃってる笑

今日は午前中はお土産を買えてない分を買い足しに雑貨店兼土産物屋さん(?)みたいなところに連れてってもらった。モンゴルのお土産ってどうしてもチンギスハンが書いてあったり、それはゴテゴテしすぎちゃうとか日本のお土産物屋の基準で比較すると、突っ込みたくなるところもちよいちよいあったけど、おまけと言ってやすいけどかわいいゲルのキーホルダーをくれたりもして楽しかった。

次にお土産のお菓子とかお酒を買いにスーパーとノミンデパートに行った。

1軒目で一緒にステイしてたゆきなさんと空ちゃんはモンゴルで気に入ったって言ってた菓子パン(?)を買った。そこでみんなでバナナを食べて、久しぶり感と甘さで幸せになってた。

2軒目のノミンデパートではお土産のクッキーとかチョコとか購入。ゆきなさんが買ってたチンギスハンウォッカ、お金に余裕あれば買ってたのに残念やった…

買い物はそこで終了。ウランバートル市内を歩き帰りで歩いたけど、おっきい建物と店がずっと連なってたし、首都はやっぱり都会なんやっていい意味で想像を裏切られた。ただ日光の強さは草原のとき同様えげつなかったんと常に舞う砂ぼこりは頂けなかった。

夜にはザイサン＝トルゴイっていう WWⅡ の戦勝記念碑に行き、夜景を楽しんだ。壁画とか石像とか有ったのにカメラが電池切れ(泣)でも夜景は素晴らしかった！

明日でお別れなのが本っ当に寂しい。やっとモンゴルの肉にも慣れてきたのに。